

第3期岡山市教育振興基本計画

令和6年度アクションプラン



令和5年度初任者研修講座より

岡山市教育委員会

目 次

1	岡山市が目指す教育	1
2	岡山市教育振興基本計画アクションプランについて	3
3	主な事業	
(1)	クローズアップ	4
(2)	事業一覧	6
	政策 1 主体的な学びの推進による確かな学力の育成	10
	政策 2 人や自然、文化との関わりを通じた豊かな心の育成	14
	政策 3 健康教育の充実による健やかな体の育成	19
	政策 4 一人一人の育ちを支える指導・支援の充実	22
	政策 5 学校園の教育環境の充実	25
	政策 6 家庭、地域社会の教育環境の充実	30
(3)	事業目標一覧	38

<参考>

○教育基本法（抜粋）

第十七条 政府は、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、教育の振興に関する施策についての基本的な方針及び講ずべき施策その他必要な事項について、基本的な計画を定め、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

2 地方公共団体は、前項の計画を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない。

1 岡山市が目指す教育

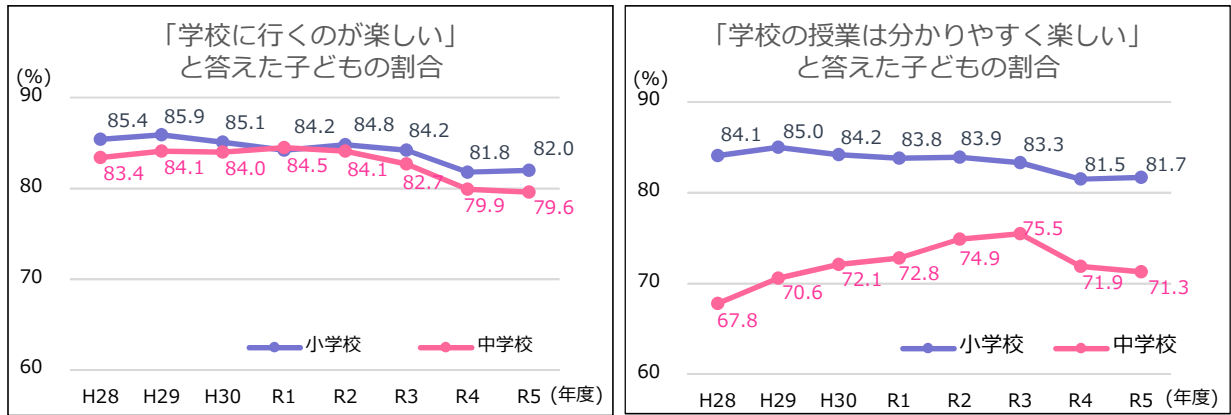
岡山市では、未来の希望である子どもたちが次代を生き抜いていくことができるよう市民協働による「自立する子ども」の育成を目指しています。「自立する子ども」とは、「自立に向かって成長する子ども」のことであり、豊かな人間性を身に付け、自分を高めるとともに、共に生きることができるよう自分自身を確立していく子どものことです。

予測が困難で変化の激しい時代にあつて、子どもが様々な変化に積極的に向き合い、多様な人々と協働しながら課題を解決していくことや、情報を活用したり、自分で考え、表現したりすることができる資質・能力を育むことが求められています。このような予測困難で変化の激しい時代だからこそ、子ども一人一人が将来それぞれの立場で社会に貢献し、自他の幸せを創造できるようになるため、「自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども」と、これまで大切に育んできた「自立に向かって成長する子ども」の姿を重ね合わせ、子どもの力を育んでいくことが大切であると考えています。

また、岡山市では、一人一人の生命と尊厳が守られ、それぞれの個性、能力を最大限に発揮できる家庭、学校園、地域社会の実現を目指しています。そのため、人権感覚を育成するとともに、社会の一員として主体的に自分の役割を果たす子どもを育て、これからの社会に生きる子どもたち一人一人が活躍し、豊かで安心して暮らせる社会を実現していくことができるようにすることが重要です。そして、多様化・複雑化する人権問題に対し、問題点を正しく見極め判断できる資質・能力や、互いの多様性を認め、人権を尊重する態度を子どもたちが身に付けられるようにし、課題解決の実践力をもった子どもの育成を目指します。

こうした教育理念のもと、中学校区を単位として、目指す子ども像を共有し、発達段階に応じて就学前教育から中学校教育等までの指導方針を一貫させて取り組む「学校園一貫教育～岡山型一貫教育～」を、縦のつながりとして推進します。また、保護者や地域住民等が学校運営に参画し、協働で子どもたちの豊かな学びと育ちを実現するための仕組みである「岡山市地域協働学校」を、地域ぐるみで学校園を支える仕組みである地域学校協働活動との連携と合わせて、横のつながりとして推進します。

さらに、E S Dに学校園全体で計画的に取り組むとともに、地域等との連携の視点を大切にしながら、S D G s（持続可能な開発目標）の視点を踏まえた教育を推進し、その中で、探究的な学習過程を重視した学びを充実させ、子どもたちが社会にある身近な問題を「自分の問題」として捉え、社会をより良いものにしていくこと、人間としてより良く生きることを学んでいくことができるよう、未来へつながる教育を推進していきます。



岡山市教育に関する総合調査より

岡山市教育に関する総合調査（上グラフ）によると、子どもの学校生活や授業に関する満足感が減少していることが分かりました。これは、感染症対策により、集団活動の制限や学校行事の縮小・中止などが影響しているのではないかと考えています。

そこで、昨年度から、子どもが他者と関わったり体験したりして学ぶ機会の充実に改めて重点を置き、学びの原動力となる「やる気につながる好奇心」を醸成する取組を進めることとしました。

I C Tも活用した協働的な学びが増えていく中で、教職員の子ども同士の議論をファシリテートする力やI C T活用の指導力がこれまで以上に重要になることから、教職員の資質・能力のさらなる向上が求められています。また、多様な子どもたちへの対応、デジタル化による学校教育の充実と業務の質的向上に資する教育D Xの推進など様々な教育課題への対応も必要となっています。

今年度、岡山市では、子どもの「好奇心」を「やる気」につなげる取組に加え、教員が子どもと向き合う時間の確保や授業改善のために学校の実情に応じて支援員等を配置するとともに、部活動改革やI C Tの利活用による学校業務の効率化により、学校環境の整備を推進していきます。

これらによって、子どもたちが教育大綱で育む5つの力（活用力、表現力、向上心、社会性、人権尊重の精神）を身に付け、「自立に向かって成長する子ども」、すなわち「自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども」となることを目指していきます。

《目指す子どもの姿》

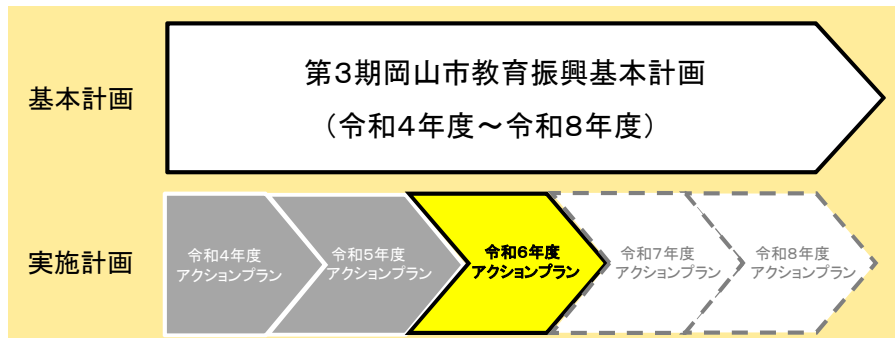


2 岡山市教育振興基本計画アクションプランについて

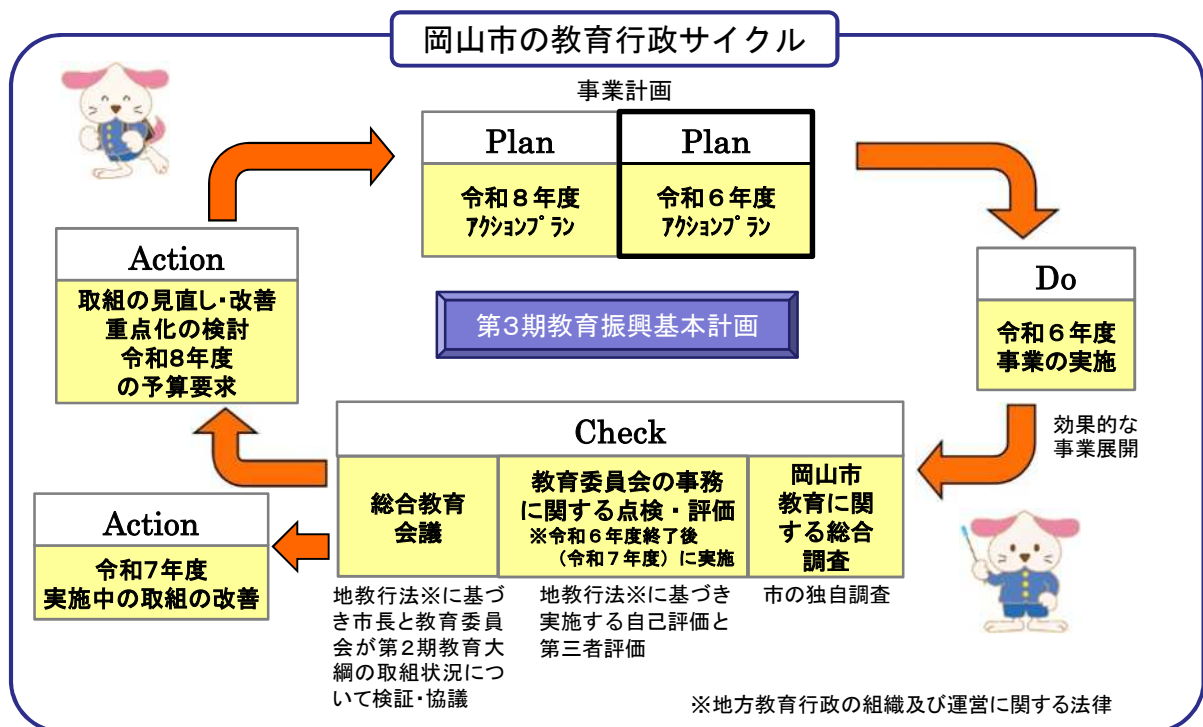
岡山市では、教育基本法第17条第2項の規定に基づき、令和4年度から8年度までの5年間の教育理念や目指す教育とともに、各政策・施策の方向性の概要を簡潔にまとめた「第3期岡山市教育振興基本計画」を策定しました。

本アクションプランは、第3期教育振興基本計画に掲載した各施策を実現するための単年度の実施計画として、事業の具体的な取組をまとめています。

子どもを取り巻く環境の変化は激しく、多様化・複雑化しています。そのため、各事業の実施については、柔軟な対応に留意するとともに、関係局との連携を図りながら効果的に施策を推進します。



第3期教育振興基本計画推進のために実施する施策については、毎年度実施している教育委員会の事務に関する点検・評価において、外部評価委員による第三者評価を実施し、その結果を議会に提出するとともに広く市民に公表します。また、第2期教育大綱に示された取組状況については、総合教育会議において、市長と教育委員会が検証・協議を行います。こうしたことを通して、PDCAサイクル【計画 (Plan) - 実行 (Do) - 評価 (Check) - 改善 (Action)】による成果の検証と計画の効果的な見直しを行います。



3 主な事業

(1) クローズアップ

目指す子どもの育成に向けて、令和6年度に重点的に取り組むことを紹介します。

柱1

やる気につながる好奇心の醸成

「やる気につながる好奇心」とは、子どもがものごとに対して抱く興味や関心のことで、学びに向かう原動力になるものです。岡山市が目指す子どもを育成するためには、学校、家庭、地域の様々な場面で、体験活動や他者との関わりを子どもが実感できる取組を進め、子どもの「好奇心」を刺激し、「やる気」につなげていくことが重要です。

特に今年度は、子どもが夢中になるICTを活用した協働的な学びなど、「子ども主体の学びの推進」に取り組みます。



急速に変化する教育環境の中で、岡山市が目指す子どもを育成していくためには、教員不足等、様々な教育課題に対応していく必要があります。施設、設備面の充実、教職員の勤務環境の改善、人材確保・育成等に一体的に取り組むことにより、教職員がこれまで以上に「子どもに向き合う時間」を充実させることができる環境づくりを進めます。

学校園環境の充実

安全安心で快適な学びの環境づくりに向けた物的・人的支援

- **ICT環境整備事業 (p28)**
校務用端末の更新及び学校用モバイルWi-Fiルータの配備拡充
- **デジタル採点システムの導入 (p27)**
採点時間、得点集計時間を削減し、教材研究や子どもと向き合う時間を確保
- **学校空調設備整備事業 (p29)**
全小中学校の特別教室等への空調設備の整備 (R7夏前まで) に向けた設計・施工
- **スクールカウンセラー配置事業 (p22)**
- **不登校児童生徒支援員配置事業 (p22)**
- **学校業務アシスト事業 (p27)**
- **部活動指導員配置事業 (p27)**
様々な専門家や支援員等の配置による教職員のサポート体制の充実
- **夜間中学設立事業 (p36)**
夜間中学開設に向けた入学説明会等の実施、施設等の整備

学びの多様化

施設の老朽化

熱中症対策

様々な
教育課題
に対応

教員不足

教員の
資質向上

教職員の
負担軽減

核となる人材の育成

研修の充実に向けた施設整備及び研修システムの構築

- **教育課題別研究事業 (p11)**
ICTを効果的に活用した授業づくりに関する研究成果の共有
- **就学前教育の充実 (p12)**
就学前教育と小学校教育の円滑な接続に向けた研修の実施
- **教職員研修事業 (p25)**
教職員が主体的に研修を受講するためのシステムの導入

多様な人材の確保

新規卒業者、教職経験者など様々な人材の採用に係る取組

- **魅力ある教員の確保事業 (p25)**
採用試験の実施方法の改善
(受験者の負担軽減や受験機会の拡大等)
教職希望者を対象としたセミナーの実施
(岡山市の先生と、ともに学び、つながる機会を提供)
Webサイトの新設
(教職という仕事が魅力的に伝わるわかりやすいサイトの構築)



(2) 事業一覧

施策ごとに、令和6年度の主な事業を紹介します。

◎:新規・拡充事業

政策1 主体的な学びの推進による確かな学力の育成

P.10

施策1-1 一貫した学びの推進

◆ 子どもの実態や学びに係る調査をもとにした授業改善による学力の育成

- ◎ 学びづくり推進プロジェクト P.10
- ◎ 英語教育推進事業 P.10
- 教育課題別研究事業 P.11
- 特色ある学校教育推進事業 P.11

◆ 生きる力の基礎を培う就学前教育の充実

- 就学前教育の充実 P.12
- 習熟度別サポート事業 P.12
- 岡山っ子スタート・サポート事業 P.12

施策1-2 豊かな学習資源の活用推進

◆ ICTや図書資料等の活用の推進

- 図書資料等の活用推進 P.13
- ICTを基盤とした情報活用能力向上事業 P.13

◆ 地域の人に支えられ学ぶ機会の充実

- 学校支援ボランティア事業 P.13

政策2 人や自然、文化との関わりを通じた豊かな心の育成

P.14

施策2-1 思いやりの心や規範意識、向上心の育成

◆ 学校園における道徳教育の充実

- 心豊かな子どもの育成事業 P.14

◆ 豊かな心を育むための文化体験の充実

- オリент美術館体験講座 P.14
- 岡山市ジュニアオーケストラ運営事業 P.14

◆ 豊かな心を育むための自然体験の充実

- 犬島自然の家での体験活動による学びの拡充 P.15
- めだかの学校での展示やWEBサイト等の充実 P.15
- わくわく探険隊 P.15

◆ 自ら学び、自ら考える人間を育てる子ども読書活動の推進

- 子ども読書活動の推進 P.16

◆ 自らの将来を切り拓く力を育むキャリア教育の推進

- 岡山キャリアスタートウィーク P.16

施策2-2 岡山を愛する心と国際感覚の育成

◆ 親しみが持てるような文化財の保存整備・活用の推進

- 文化財及び埋蔵文化財の発掘調査成果の活用 P.17
- 史跡公有化の推進 P.17
- 史跡保存整備事業 P.17

◆ 美術館の活用による文化力の発信

- オリент美術館特別展等の開催 P.18
- オリент美術館学校連携推進事業 P.18

◆ 持続可能な社会づくりに向けたESDの推進

- ESDに係る地域と連携した取組の推進 P.18

◆ 外国の人との交流機会の充実

- ◎ ALTを活用した多文化理解の促進 P.18

政策3 健康教育の充実による健やかな体の育成

P.19

施策3-1 体力づくりの充実と安全教育の推進

◆ 体力・運動能力の向上を目指した運動習慣の確立と健康の保持増進

- ◎ 運動習慣定着化事業 P.19
- 学校保健事業 P.19

◆ 健やかな成長を促すための安全教育の充実

- 実践的安全教育総合支援事業 P.20
- 子どもの命を守る取組の推進 P.20
- 防災キャンプ推進事業 P.20

施策3-2 食育の推進

◆ 健全な食習慣の形成を目指した学校園における食育の充実

- 学校給食における食育の推進 P.21
- 客観的な数値を活用した食育事業 P.21

政策4 一人一人の育ちを支える指導・支援の充実

P.22

施策4-1 一人一人を大切に集団づくりの推進

◆ 一人一人の子どもの個々の状態に合わせた支援による集団づくりの充実

- 生徒指導関係事業<総合支援*> P.22

◆ 落ち着いた教育環境をつくるための学校園の体制の充実

- スクールカウンセラー配置事業<総合支援> P.22
- 不登校児童生徒支援員配置事業<総合支援> P.22
- 教育支援アドバイザー配置事業<総合支援> P.23

◆ 問題行動等の未然防止及び早期解決のための取組の充実

- いじめ専門相談員派遣事業<総合支援> P.23
- 問題行動等対策事業<総合支援> P.23

* 総合支援…問題行動等の防止及び解決に向けた総合支援事業

施策4-2 一人一人の課題に応じたきめ細かな支援

◆ 支援や配慮を必要とする子どもが安心して学校生活を送るための支援体制の充実

- 就学援助事業 P.24
- ◎ 共に生きる子どもを育てる障害児支援事業 P.24
- 日本語教育推進事業 P.24

政策5 学校園の教育環境の充実

P.25

施策5-1 教職員の資質・能力の向上と支援体制の充実

◆ 教育力向上のための優秀な人材の確保

- ◎ 魅力ある教員の確保事業 P.25

◆ 教職員研修や教育研究の取組を通じた教職員の資質・能力の向上

- 学校園における人権教育の充実 P.25
- ◎ 教職員研修事業 P.25
- OJT若手教員育成支援プロジェクト P.26
- 教職員の力量を高める教育研究事業 P.26
- ◎ ICT活用指導力向上事業 P.26

◆ 教職員への支援体制の充実

- 学校問題解決サポート事業<総合支援> P.26
- 学校業務アシスト事業 P.27
- 部活動指導員配置事業 P.27
- ◎ デジタル採点システムの導入 P.27
- 新教育研究研修センター(仮称)整備事業 P.27

施策5-2 安全・安心で快適な教育環境の整備

◆ ICT環境や学校図書館などの充実

- 学校図書館の充実 P.28
- ICT環境整備事業 P.28

◆ より良い学習環境・学校生活に配慮した施設の整備による教育環境の充実

- 学校施設長寿命化改修事業 P.28
- 義務教育学校施設整備事業 P.29
- ◎ 学校空調設備整備事業 P.29
- ◎ 学校給食施設再整備事業 P.29

政策6 家庭、地域社会の教育環境の充実

P.30

施策6-1 家庭の教育力向上への支援

◆ 家庭教育や子育て支援の充実

- PTAにおける人権教育の充実 P.30
- 家庭教育支援事業 P.30
- スクールランチセミナーの充実 P.30
- 絵本の読み聞かせ事業 P.31
- 子育て支援「のびのび親子広場」事業 P.31

施策6-2 地域社会の教育環境の充実

◆ 生涯にわたって学び続ける機会と場の充実

- インターネット予約図書事業 P.32
- 図書館業務システム更新による市民サービスの向上 P.32
- 連携中枢都市圏図書館相互利用 P.32
- 公民館ESD・SDGs活動推進事業 P.33
- 公民館運営事業(公民館基本方針の推進) P.33
- 二十歳の集い事業 P.33

◆ 地域社会での健全な子どもの育成とその推進のための指導者育成の充実

- 子ども会リーダー・育成者研修事業 P.34
- 放課後子ども教室推進事業 P.34
- わくわく子どもまつり P.34

◆ 生涯学習環境の充実・整備

- 公民館建設・整備事業 P.35
- ◎ 郷土資料のデジタルアーカイブ公開と保存・活用 P.35
- 夜間教室運営事業 P.35
- ◎ 夜間中学設立事業 P.36
- 岡山中央中学校区公民館(仮称)建設事業 P.36

施策6-3 家庭、学校園、地域社会の協働体制の確立

◆ 地域協働学校及び地域学校協働活動の活性化

- 地域協働学校の活性化と学校評価の充実 P.37
- 地域と学校協働活動推進事業 P.37

◆ 市民協働による人づくりを推進するための広報広聴活動の充実

- 広報広聴活動の充実 P.37

※事業一覧の見方

事業名	< >内は、事業群名	担当課	予算額 (千円)	R6年度 予算額
事業の概要	事業の内容について簡潔に記載しています。		前年度からのつながりを「新規」「継続」「拡充」の区分で表しています。	
現状と課題	第3期教育振興基本計画の「現状と課題」を踏まえて、事業のこれまでの取組、成果、課題等の中から、特徴的なことを記載しています。			
今年度の重点	教育大綱で育む「5つの力」「2つの目標」とのつながり、第3期教育振興基本計画の「施策の方向性」を踏まえて、今年度の事業の重点について記載しています。特に、 <u>クローズアップ</u> とのつながりが深い内容については、 <u>下線を引いています。</u>			
他局・他課との連携	他局・他課と連携している場合は、その内容について記載しています。			

政策1

主体的な学びの推進による確かな学力の育成

■ 施策1-1 一貫した学びの推進

施策の方向性

- 「中学校区を単位とした学校園一貫教育～岡山型一貫教育～」をさらに進め、就学前教育から中学校教育等までの発達段階に応じた継続的な学習指導や支援を充実します。
- 主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、探究的な学習活動を取り入れたり、子ども同士が考えたことや伝えたいことを表現したりするなど、学んだことを次の学びや生活に生かす資質・能力を育む授業や、グローバル化等に対応した英語教育等の充実を図ります。

◆ 子どもの実態や学びに係る調査をもとにした授業改善による学力の育成

事業名	学びづくり推進プロジェクト	担当課	学校指導課 幼保運営課	予算額 (千円)	71,600
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「子どもが輝く学びづくりプロジェクト」の実施を軸とした「岡山型一貫教育」の推進 ○ 全国学力・学習状況調査、岡山っ子アセスの結果を分析・活用した授業づくりと学級集団づくりの推進 ○ 指導者用デジタル教科書によるICTを効果的に活用した授業づくりの推進 				拡充
現状と課題	<p>「子どもが輝く学びづくりプロジェクト」では、3、4年次については、各中学校区で積極的な授業研究が進められている。今後、全ての年次で、教職員一人一人の授業力が向上できるように、より効果的な研究方法や研究体制を構築すること、各中学校区の就学前と小学校、小学校と中学校の連携をさらに深める必要がある。各学校が全国学力・学習状況調査や岡山っ子アセスの結果を分析し、手立てを立案する改善プランを作成し、授業づくりと学級集団づくりに生かしている。デジタル教科書の活用についてオンライン説明会等を行っており、教員の意識は高まっている。今後、より一層効果的な活用方法を浸透させていく必要がある。</p>				
今年度の重点	<p>「子どもが輝く学びづくりプロジェクト」において、<u>各学校の実態を踏まえたより効果的な研究方法や研究体制の構築、学校種間の連携が充実するように働きかける。</u> 教育課程研究協議会等で、全国学力・学習状況調査や岡山っ子アセスの結果を分析する視点や方法を示し、各学校が授業づくりと学級集団づくりに生かせるようにする。 ICTの活用を含めた授業改善に関する事例を収集し、学習指導要領説明会や通信等で、情報共有を行う。</p>				

事業名	英語教育推進事業	担当課	学校指導課	予算額 (千円)	193,900
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の指導力・英語力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定校による公開授業及び文部科学省調査官を招いての講義を実施する。 ・ 特色ある教育推進校による公開授業研究会を実施する。 ・ 英語力測定試験を通して、生徒の英語力を客観的に把握し、教員の授業改善に生かす。 ○ 教育環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語指導助手(ALT)を配置する。(民間派遣ALT45人、JET-ALT3人) 				拡充
現状と課題	<p>多文化理解の促進と英語によるコミュニケーション能力の育成に向けて、小・中・義務教育学校へ外国語指導助手(ALT)を配置し、子どもたちが英語を使う教育環境の充実を図るとともに、公開授業研究会等により教員の指導力及び英語力の向上を推進してきた。英検3級以上相当の英語力を有する生徒の割合については、目標としていた50%を上回ることができたが、今後も学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善と児童生徒が英語を使ってコミュニケーションを図る機会の充実を継続していく必要がある。</p>				
今年度の重点	<p><u>児童生徒が授業の中で英語を使って表現する機会を増やしたり、教員の指導力向上のための研究協議会を実施したりすることで、グローバル化の進展する社会でより良く生きていくために必要な英語力を育成できるようにする。</u></p>				

事業名	教育課題別研究事業	担当課	教育研究研修センター	予算額(千円)	327
事業の概要	岡山市の教育課題を取り上げ、2年間を単位に、研究協力校とともに効果的な指導方法等について研究する。				継続
現状と課題	R6・7年度は、研究協力校(3校)とともに、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のためのICTを効果的に活用した授業づくり」に向けた研究に取り組む。 『令和の日本型学校教育』の構築を目指して(中央教育審議会)に示されている「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげていく授業改善の視点が求められている。研究協力校とともに、今までの本研究での成果を生かしながら、授業実践を通じた研究を行っていく必要がある。また、その研究成果はクラウド上に掲載するとともに、研修講座や出前講座等でも伝え、岡山市立学校全体に研究の成果を浸透させていく必要がある。				
今年度の重点	R4・5年度の本研究で明確になったICT活用の強みを最大限に生かして、子どもの実態に応じた授業づくりを行うことで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ、子どもたちの資質・能力の向上を図る。 また、その研究成果をクラウド上に掲載し、岡山市立学校に広め、教員の授業改善につなげる。				

事業名	特色ある学校教育推進事業	担当課	学校指導課	予算額(千円)	8,054
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国の最新かつ専門的な情報を基に授業改善を図る学習指導要領説明会の実施 ○ ESDの推進に向けたESDに係る地域と連携した取組の実施 ○ 「岡山市中学校総合文化祭」の開催支援 				継続
現状と課題	教育課程研究協議会や学習指導要領説明会を通して、国からの情報や岡山市の方針に沿った教育課程編成や「授業これだけは！+PLUS」の趣旨を踏まえた授業改善の推進を図り、授業や教育課程の改善や充実が図られつつある。 コロナ禍の影響も残り、地域との連携を活用した取組によるESDの推進や総合的な学習に時間の在り方への課題が残っている。				
今年度の重点	学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善を継続するとともに、知識・技能を活用して思考・判断・表現する授業づくりの中で「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「やる気につながる好奇心」を土台とした授業づくりを推進する。				

◆ **生きる力の基礎を培う就学前教育の充実**

事業名	就学前教育の充実	担当課	幼保運営課	予算額 (千円)	95
事業の概要	<p>保育園・幼稚園・認定こども園の教職員を対象にした合同職員研修等を通し、就学前教育において育みたい資質・能力の育成や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保育改善を推進する。</p> <p>公私立園と小学校の教職員を対象にした連携研修等を通し、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた教職員の資質向上と就学前教育の充実を図る。</p>				継続
現状と課題	<p>質の高い就学前教育を保障するため、同じ就学前の子どもを教育するという考えの下、就学前教育に携わる教員等に対する研修等を開催し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保育の改善に取り組む意識の向上を図っている。今後も、教員一人一人が、幼児の学びを意識して、主体的に保育実践や改善に取り組むことが必要である。また、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図るため、さらに主体的・対話的で深い学びや幼保小の架け橋プログラムの重要性について理解を深め、保育実践や改善に生かすとともに就学前の学びを小学校以降の学びにつなげていくことが必要である。</p>				
今年度の重点	<p>保育園・幼稚園・認定こども園の教職員を対象にした合同職員研修等で、就学前教育において育みたい資質・能力や主体的・対話的で深い学びについての理解を深め、保育の改善につなげる。また、公私立園と小学校教員が参加する連携研修等を通して、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿や幼保小の架け橋プログラムの重要性について周知を図り、共に学び語り合うことで、幼児期から児童期への子どもの育ちや学びについて理解を深め、小学校教育への円滑な接続に向け、教職員の資質向上と就学前教育の充実を図る。</p>				

事業名	習熟度別サポート事業	担当課	教職員課	予算額 (千円)	36,268
事業の概要	<p>児童一人一人の学力向上を目指し、小学校2年生から6年生の算数や国語の授業において、10人未満の小さな集団による習熟度別授業や、家庭学習につなげるための放課後学習指導を行うことができるよう習熟度別サポーターを配置する。</p>				継続
現状と課題	<p>全国学力・学習状況調査や学力アセスの結果をもとに、学校ごとの授業改善は進んでいるが、身に付いた知識を関連付けて答えを導き出したり、考えの理由を明確にして説明したりする力の改善が十分とは言えないことが判明している。そこで、本事業ではH21年度から、落ち着いた環境で、個々の実態に合った授業を受けることができるよう習熟度別サポーターを配置しているが、今後も継続し、個々の課題に応じた指導を実施したり少人数での発言しやすい雰囲気づくりを重視した授業づくりをしたりする必要がある。</p>				
今年度の重点	<p>少人数指導という特徴を生かした、子ども同士が考えたことや伝えたいことを表現しやすい授業を通して、自分の思いや考えを他者に伝える表現力を育成できるようにする。そのために習熟度別サポーターを配置する。</p>				

事業名	岡山っ子スタート・サポート事業	担当課	教職員課	予算額 (千円)	132,256
事業の概要	<p>小学校生活の円滑なスタートを切るとともに、学習及び生活の規律の確かな定着が図られるように、小学校1年生に対し、年間を通じて生活指導や学習指導に当たる教育支援員を配置する。</p>				継続
現状と課題	<p>H25年度から教育支援員を配置し、生活・学習指導の支援に当たることで、小学校生活の円滑なスタートを切ることができるように事業を進めてきたが、今後も継続して配置し、小学校での学習に取り組む姿勢の素地づくりを進めていく。</p>				
今年度の重点	<p>就学前教育から小学校教育の円滑なスタートを切ることができるように、年間を通じて生活指導や学習指導の支援をすることで、教育大綱で示された「5つの力」を育成しやすい授業づくり、学級づくりにつなげる。そのために支援員を配置する。</p>				

■ 施策1-2 豊かな学習資源の活用推進

施策の方向性

- 地域人材を効果的に活用して探究的な学習を進めるなど、学校園だけでなく、家庭や地域社会と連携して子どもの豊かな学びを育む教育活動を進めます。
- 情報活用能力など、今後、子どもに必要な資質・能力を育成するために、ICTや図書資料等を効果的に活用する授業の推進を図ります。

◆ ICTや図書資料等の活用の推進

事業名	図書資料等の活用推進	担当課	学校指導課	予算額 (千円)	—
事業の概要	学習活動における図書資料や統計資料、新聞、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の活用推進				継続
現状と課題	学習活動での図書資料等の活用としては、授業者が、副教材である資料集に掲載された統計資料や新聞を使ったワークシート、テレビ番組やDVD等の視聴覚教材を活用したり、学校司書が各学校の教育課程に合わせて整備した図書資料を活用したりすることが行われている。今後は、教室等で学習活動をする際に、1人1台端末などのICT環境を利用して得たインターネット上の情報と図書資料等とを併せて有効に活用していく必要がある。				
今年度の重点	学習活動の中で、子ども一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じて、図書資料等を柔軟に活用できるように、各教科の年間指導計画や学校図書館運営計画(経営計画)を見直し、子どもたちが自らの課題を解決するために必要な知識や情報を習得し、情報を活用する能力を育成する。				

事業名	ICTを基盤とした情報活用能力向上事業	担当課	教育研究研修センター	予算額 (千円)	7,994
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校区ごとの「情報活用能力育成カリキュラム」をもとにした、学習活動におけるICT活用の促進 ○ 著作物を扱った教材・資料等のデータ送信を可能とするために必要な制度への一括的な対応 				継続
現状と課題	国のGIGAスクール構想による1人1台端末等ICT環境の整備を行い、授業等でのICT活用については、教員、子どもともに徐々に進んできたところもあるが、その内容や頻度には未だ学校間で差がある。本事業では、これまで中学校区ごとで作成してきた「情報活用能力育成カリキュラム」をもとに、計画的かつ系統的な指導のさらなる充実を図っていくとともに、より効果的なICT活用が全校で展開されるよう各校の好事例の紹介などにも取り組んでいく必要がある。				
今年度の重点	「情報活用能力育成カリキュラム」に関連した計画的な授業実践や、端末の持ち帰りによるICTを活用した家庭学習の充実を図ることで、子どもの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成していく。特に、子どもが問題解決のために主体的にICTを活用する力や、自分の考えを相手に伝えるためにプレゼンテーション等で分かりやすく表現する力を身に付けることができるようにする。				

◆ 地域の人に支えられ学ぶ機会の充実

事業名	学校支援ボランティア事業	担当課	生涯学習課	予算額 (千円)	4,956
事業の概要	地域住民や学生がボランティアとして学校園へ入ることにより、学校教育や地域の活性化を図り、ボランティア活動を通じた地域の教育力の向上を図る。 学生ボランティアに対しては、大学等から活動先までの距離に応じて交通費相当額の補助を行い、継続的な活動や周辺部の学校園での活動を促進しているほか、ボランティア活動に関する研修会等の開催により、ボランティア活動に対する意識の高揚や、資質の向上を図っている。				継続
現状と課題	学校支援ボランティアは、各学校園のニーズに応じて、授業等の学力向上に関わる支援や特別な支援を必要とする子どもの支援、環境整備など学校園の様々な分野の活動で活躍している。 しかし、今後より一層、学校園のニーズに対応していくためには、ボランティア登録者の数を増やすとともに、登録したボランティアが実際に活動した数も増えるように働きかけていく必要がある。				
今年度の重点	地域と連携し、地域の教育力を活かした学校支援ボランティア活動を推進し、子どもたちが地域の <u>人々に支えられ学ぶことにより、学びへの向上心を育成する</u> 。そのため、今後もボランティア登録者や学校園・家庭・地域に積極的な啓発を行い、ボランティア登録者数と実際に活動している人数の増加を図る。				

政策2

人や自然、文化との関わりを通じた豊かな心の育成

■ 施策2-1 思いやりの心や規範意識、向上心の育成

施策の方向性

- 自然や文化芸術に触れる機会により、豊かな感性を育むとともに、道徳科の授業等を通して、思いやりの心や規範意識、向上心を育成します。
- 職業観を醸成し、社会人として必要なマナー等を身に付けるため、発達段階に応じたキャリア教育を推進するとともに、自分らしい生き方を実現するための資質・能力を育成します。

◆ 学校園における道徳教育の充実

事業名	心豊かな子どもの育成事業	担当課	学校指導課	予算額 (千円)	655
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業公開を伴う「岡山市道徳教育研究協議会」の実施 ○ 児童生徒が自らの生き方を見つめ直す機会を提供する「あの人の生き方に学ぶ講演会」の実施 ○ 優れた演劇を鑑賞する機会を提供する「こころの劇場」の実施 				継続
現状と課題	<p>豊かな心を育むために、優れた芸術に触れる体験活動や、子どもが考えたり議論したりする道徳科の授業の充実を図ってきた結果、「人が困っているときに進んで助けている」と答えた子どもの割合が約8割を超えて推移しており、思いやりの心や規範意識、向上心をもった子どもの育成につながったと考えている。一方で、上記の質問に対する否定的な回答も一定数あり、道徳教育等の充実を図ることで、豊かな感性や思いやりの心、規範意識、向上心を育成していく必要がある。</p>				
今年度の重点	<p>道徳科の授業を要とする道徳教育の充実や芸術体験活動の充実により、児童生徒の思いやりや規範意識、向上心等を育成できるようにする。</p>				

◆ 豊かな心を育むための文化体験の充実

事業名	オリент美術館体験講座	担当課	オリент美術館	予算額 (千円)	96
事業の概要	<p>オリент美術館において、小中学生を対象に開催している「ジュニアオリент教室」や、市内の中学校美術部生徒が当館を会場として共同制作する「中学校美術部生徒対象ワークショップ」、月2回、当館で開催しているワークショップ「オリエン太のアトリエ」のほか、学校や公民館での出前講座等、様々な講座やワークショップを開催する。</p>				継続
現状と課題	<p>館内外で実施する講座やワークショップには、子どもから大人まで幅広い参加があり、小中学生の参加者数も徐々に増加している現状である。 今後はより多くの方々の参加を目指し、企画の魅力向上や広報活動に努める必要がある。</p>				
今年度の重点	<p>館内外で実施する講座やワークショップの開催を通じて、文化芸術に触れる多様な体験活動の充実を図り、子どもの好奇心を育む。また異文化や歴史への理解を深める機会やものづくりの場を提供することにより、子どもの社会性や表現力の醸成に寄与する。</p>				

事業名	岡山市ジュニアオーケストラ運営事業	担当課	地域子育て支援課	予算額 (千円)	24,758
事業の概要	<p>S40年1月、音楽を通じた情操豊かな青少年の育成、市民文化の向上を目的とし、全国初の公立ジュニアオーケストラとして設立。団員は原則として小学校3年生から高校3年生。H28年度からはジュニア合唱教室も加わり、裾野を広げている。 年2回の演奏会に加え、依頼演奏やミニコンサートなどを通じて、より市民に身近なオーケストラを目指している。</p>				継続
現状と課題	<p>各家庭が単独で行うことが難しい専門的な音楽指導やオーケストラ体験を通して、文化への幅広い理解を育む機会となっている。弦楽器を中心に人数が少ないパートがあり、長期育成を視野に入れた団員確保が課題である。</p>				
今年度の重点	<p>専門性の高い指導員からの指導や演奏会や依頼演奏を通じて、豊かな感性や表現力を育む。また、小学校3年生から高校3年生の異年齢集団での活動を通して、相手を思いやる心や社会性を育成する。団員確保のためにより身近なオーケストラとして魅力ある演奏会を行う。</p>				

◆ 豊かな心を育むための自然体験の充実

事業名	犬島自然の家での体験活動による学びの拡充	担当課	生涯学習課	予算額 (千円)	1,092
事業の概要	海に囲まれた豊かな自然環境の犬島自然の家において、個人及び団体向けの体験的な活動による学びを充実させることで、市民の心身の健全な育成に寄与する。				継続
現状と課題	これまで主催事業等では天体観測、シーカヤック体験等を行ってきており、参加者からは概ね好評であるが、引き続き、参加者の声や要望などを参考にしながら体験的な活動の拡充を図っていく。また、情報発信のツールとしてSNS等も積極的に活用し、利用者の増加を図る。				
今年度の重点	課題解決学習の一環としての校外学習等の受け入れや、不登校などの事情を抱えた個人に対応した取組を継続するとともに、天体観測やシーカヤック体験等の既存の体験活動を拡充することにより、犬島の自然との触れ合いを通じて、子どもの豊かな心を育成する。				

事業名	めだかの学校での展示やWEBサイト等の充実	担当課	生涯学習課	予算額 (千円)	1,085
事業の概要	施設展示や主催事業、学校園との交流等を通して体験型の環境学習の場を提供し、環境保全の重要性について伝えていく。				継続
現状と課題	これまで施設内での展示のほか、館内外で講座等を実施するなど、環境問題を身近に感じてもらえるよう活動を行ってきた。コロナウイルス感染症の影響もあり入館者数や学校園での利用は減少していたが、R4年度以降は徐々に回復しており、施設内で展示している淡水魚の高精細動画の展示や情報発信など、環境学習に関心をもってもらえるような新たな取組を行っている。また、施設面については建築から長期間が経過しているため、修繕が必要な箇所が増えてきており、適切な修繕対応が必要となっている。				
今年度の重点	自然との触れ合いにより子どもの好奇心を育むため、展示内容や体験学習を充実し、環境学習へ関心を引き付ける動機づけとする。また、R5年度に新たに構築したWEBサイトの内容をより充実させ、学校、家庭での学習機会の提供に努める。施設面においては、管理棟等の改修工事を予定している。				

事業名	わくわく探険隊	担当課	地域子育て支援課	予算額 (千円)	520
事業の概要	H14年度から、自然の中で異年齢の仲間と協力し、自分たちで生活を創り上げるキャンプを岡山市子ども会育成連絡協議会や社会教育施設等との協働によって実施している。2泊3日の生活を基本とし、自然や人のかかわりに重点を置き、子どもたちの豊かな体験活動の場として提供している。				継続
現状と課題	R5年度から4年ぶりに2泊3日の宿泊での実施を再開した。(R2年度は中止。R3、4年度は日帰りでの実施。)参加希望者は多く、募集定員に対して大幅に定員を上回る申し込みがあり、本事業に対する子どもたち・保護者の期待は大きい。今後の課題としては、実施方法や場所等の模索や事業協力者との連携が挙げられる。				
今年度の重点	広大な自然をフィールドに、初めて出会う異年齢の友達と構成されるグループ内でのかかわりの中で、社会性や人権尊重の精神を育むとともに、自分自身の表現力の向上を図る。				

◆ **自ら学び、自ら考える人間を育てる子ども読書活動の推進**

事業名	子ども読書活動の推進	担当課	中央図書館	予算額 (千円)	—
事業の概要	「岡山市子ども読書活動推進計画」に基づき、児童書の蔵書を充実することによって子どもたちの読書や調べ学習を支援する。市内の学校や公民館との連携事業を引き続き行い、読書のきっかけとなるように興味・関心が湧くようなテーマ展示や行事を開催する。			継続	
現状と課題	中央図書館の長寿命化改修工事後は、閲覧室が明るく、展示図書も手に取りやすくなったことで、子どもたちの来館が増えている。また、行事についても、R5年度当初は新型コロナウイルス対策で参加人数を制限していたものの、5類移行後は通常頻度での開催ができるようになり、参加人数の目標値を達成できた。他館においてもレイアウト変更や、テーマ展示、行事の開催に工夫して取り組んでいる。 行事の参加機会や貸出冊数を新型コロナウイルス感染症流行前の水準に戻していくこと、学校や地域との連携と支援を広げて子どもたちの読書環境を充実させることが課題である。				
今年度の重点	読書体験は、教育大綱での「育む5つの力」を培う上で、大切なことである。資料の充実と更新を図り、興味や関心が湧くようなテーマ展示や読み聞かせ、環境や科学をテーマとしたワークショップ等の行事の機会を増やしたり、工夫したりすることにより、子どもたちの読書意欲を高めて、やる気につながる好奇心の醸成に寄与していく。				
他局・他課との連携	生涯学習課（「子そだておうえんパッピータイム」、「のぞいてみよう！めだかの学校」への協力） 地域子育て支援課・健康づくり課（「こんにちは赤ちゃん事業（ブックスタート）」での絵本の選考、絵本リーフレット・読み聞かせ体験案内の配布、愛育委員研修への講師派遣）				

◆ **自らの将来を切り拓く力を育むキャリア教育の推進**

事業名	岡山キャリアスタートウィーク	担当課	学校指導課	予算額 (千円)	2,252
事業の概要	全ての中学校・義務教育学校（後期課程）で地域の事業者との協働による職場体験活動を実施する際の生徒の傷害保険・賠償責任保険の保険料を負担する。 本事業を実施する中学校・義務教育学校（後期課程）の「地域職場体験活動推進会議」へ補助金を交付する。			継続	
現状と課題	R2、3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの中学校の職場体験活動が中止となったが、R4年度は1割の学校で職場訪問や講演会等の代替行事を行い、R5年度は全ての学校で通常通りに実施した。 中学校第2学年での職場体験活動の学びが、小学校を含めたそれまでの学びや将来の生き方につながられるよう、キャリアパスポートの活用を促進していく必要がある。				
今年度の重点	職場体験活動を中心としたキャリア教育を通して、自分の生き方について主体的に考えようとする態度や情報を収集して活用する力、他者と協力して課題を解決しようとする力を向上させる。 人権尊重の精神に根差した思いやりの心や規範意識、向上心を養うために、豊かで多様な体験活動の充実を図る。				

■ 施策2-2 岡山を愛する心と国際感覚の育成

施策の方向性

- 豊かな自然環境や文化芸術に触れる機会などの多様な体験活動を、地域の魅力や課題などに気付く活動に結び付けることで、地域の一員としての意識を育みます。
- 地域の自然や歴史への興味・関心を高めるための、文化財や美術館の活用、保存・整備を進めます。

◆ 親しみがもてるような文化財の保存整備・活用の推進

事業名	文化財及び埋蔵文化財の発掘調査成果の活用	担当課	文化財課	予算額 (千円)	155
事業の概要	発掘調査を行った際には、現地説明会を開催し調査現場を一般に公開している。埋蔵文化財センターでは、出土遺物を活用して、H19年度から定期講座を、H22年度から企画展を開催し、H27・28・R5年度にはシティミュージアムで特別展を開催した。旧旭東幼稚園園舎では就学前児を対象にしたイベントを開催している。				継続
現状と課題	豊かな自然環境や歴史文化遺産を有することが岡山市の特徴であり、それらを活用して郷土の文化財への関心を高めていく必要がある。				
今年度の重点	第3期岡山市教育振興基本計画における施策2-2の岡山を愛する心と国際感覚の育成に関することとして、発掘調査成果を活用して講座や企画展を開催する。				

事業名	史跡公有化の推進	担当課	文化財課	予算額 (千円)	89,833
事業の概要	将来の保存整備のためにH18年度から史跡大廻小廻山城跡、H29年度から史跡造山古墳の公有化を行っている。				継続
現状と課題	豊かな自然環境や歴史文化遺産を有することが岡山市の特徴であり、それらを恒久的に保護・保存し、生かしていくためにも史跡の公有化は必要な事業である。				
今年度の重点	第3期岡山市教育振興基本計画における施策2-2の岡山を愛する心と国際感覚の育成に関することとして、史跡大廻小廻山城跡、史跡造山古墳の公有化を行っていく				

事業名	史跡保存整備事業	担当課	文化財課	予算額 (千円)	179,621
事業の概要	H14～19年度に史跡岡山城跡本丸中の段整備事業を行った。H23年度から史跡岡山城跡本丸下の段整備事業を開始した。H16～21年度に史跡賞田廃寺跡整備事業を行った。H27年度から史跡造山古墳群の整備事業を開始した。H26～R4年度まで金蔵山古墳、H28年度から造山古墳群、R3年度から万富東大寺瓦窯跡の範囲確認のための発掘調査を行っている。				継続
現状と課題	豊かな自然環境や歴史文化遺産を有することが岡山市の特徴であり、それらを恒久的に保護・保存し、生かしていくためにも史跡の整備は必要な事業である。				
今年度の重点	第3期岡山市教育振興基本計画における施策2-2の岡山を愛する心と国際感覚の育成に関することとして、史跡岡山城跡、史跡造山古墳群の整備を行っていく。				

◆ 美術館の活用による文化力の発信

事業名	オリент美術館特別展等の開催	担当課	オリент美術館	予算額 (千円)	13,000
事業の概要	オリентに関連した特別展、館藏品展、企画展を開催する。会期中には展示内容に関連したギャラリートークや講演会、ワークショップ等を開催する。				継続
現状と課題	特別展を年1回行っており、R5年度は特別展「大航海時代へーマルコ・ポーロが開いた世界ー」を開催するとともに、小企画展5回のほか、館藏品展を行っている。国内唯一の公立オリент専門館でありつつ、子どもたちにも親しみやすい展示を工夫し、異文化や歴史への理解を深めることができる環境を醸成していく必要がある。				
今年度の重点	R6年度は特別展「ガラスの創造力ー色彩と煌めきの4000年ー」、館藏品展に併設した小企画展5回を予定している。異文化が生み出した考古美術品の鑑賞を通してものの考え方や技術に触れ、多様な視点で考える力を育成するとともに、地域史を相対化する思考を養う機会とする。				

事業名	オリент美術館学校連携推進事業	担当課	オリент美術館	予算額 (千円)	264
事業の概要	学校教育と連携し、R5年度に作成した情報可視化ツールの活用を含む学習プログラムの開発を進める。				継続
現状と課題	オリент美術館はこれまで小中学生を対象に所蔵品を活用した講座を単発的に行ってきたが、特に昨年度には、小学生を対象としたICTを活用した情報可視化ツールを作成し、また中学生を対象とした授業研究の推進に取り組んでいる現状である。今後は、作成した情報可視化ツールの活用を推進していく必要がある。				
今年度の重点	昨年度作成したICTを活用した情報可視化ツールを、親しみやすく学べる手段として広く提供することにより、好奇心や探求心の醸成に寄与する。				

◆ 持続可能な社会づくりに向けたESDの推進

事業名	ESDに係る地域と連携した取組の推進	担当課	学校指導課	予算額 (千円)	特色ある学校教育推進事業費に含まれる
事業の概要	学校と事業所等が連携・協働して取り組めるよう、地域と連携したESDに係る学校の取組を支援				継続
現状と課題	岡山市教育に関する総合調査では、自分たちが住んでいる地域に関心がある児童生徒の割合は増加傾向にあるが、約5割の子どもは自分たちの住んでいる地域にあまり関心を示していない。本事業は、今まで、地域と連携したESDに係る学校の取組を支援してきたが、そのことを踏まえ、地域の環境や地域に暮らす人、歴史的な学習資源などの関わりを積み重ねる取組を推進していく必要がある。				
今年度の重点	各学校は学区ごとの環境を生かして、地域がもつよさを再確認し、地域が抱える課題に対して <u>探究的な学習活動を充実させ</u> 、自分の地域から世界へ視野を広げられる子どもの育成を目指す。				
他局・他課との連携	SDGs・ESD推進課と連携し、各学校の取組の支援や広報活動を行っている。				

◆ 外国の人との交流機会の充実

事業名	ALTを活用した多文化理解の促進	担当課	学校指導課	予算額 (千円)	206,057
事業の概要	外国語指導助手(ALT)を配置する。(民間派遣ALT45人、JET-ALT3人、石井小学校外国人講師1人、岡山後楽館高等学校ALT3人)				新規
現状と課題	多文化理解の促進と英語によるコミュニケーション能力の育成に向けて、小・中・義務教育学校へ外国語指導助手(ALT)を配置し、子どもたちが英語を使う教育環境の充実を図っている。英語の授業以外の場でもALTを活用することで一層の多文化理解を推進する必要がある。				
今年度の重点	児童生徒が授業の中で英語を使って表現する機会を増やすことで、グローバル化の進展する社会でより良く生きていくために必要な英語力や国際感覚を育成できるようにする。				
他局・他課との連携	国際課との共催により、岡山市と国際友好交流都市(6都市)との間で隔年で子どもを派遣し、国際交流を推進する。				

政策3 健康教育の充実による健やかな体の育成

■ 施策3-1 体力づくりの充実と安全教育の推進

施策の方向性

- 家庭との連携を一層重視した取組を進めることで、日常的で自発的な子どもの運動習慣の定着を図ります。
- 関係機関との連携により、主体的な運動習慣の定着に向けた取組の推進を図ります。

◆ 体力・運動能力の向上を目指した運動習慣の確立と健康の保持増進

事業名	運動習慣定着化事業	担当課	保健体育課	予算額 (千円)	630
事業の概要	H27年度に岡山市子どもの運動習慣定着化協力者会議を開催し、「体育の自主学習」を含めた運動をするきっかけづくりとなる取組に関する資料作成を行っている。 H30年度から市内各学校に運動の習慣化を普及するため、小学校4校の研究推進モデル校による実践と、R2年度から中学校1校の実践を加えてその成果を広めている。				拡充
現状と課題	スポーツ庁の「令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、1週間の総運動時間が60分未満の中学2年生の生徒の割合は、男子14.4%、女子30.5%であり、昨年度と比べて大きく増加した。保健体育の授業が楽しいと肯定的な回答をしている生徒の割合に比べ、自発的に運動をしようとする生徒の割合は低く、課題が見られる。				
今年度の重点	岡山市小・中学校校長会、体育連盟・関係機関等の有識者と連携しながら、自発的な運動につながっていない要因を分析するとともに、課題整理や取組の方向性についての検討を行う。 広く取組の充実を図るため、新たに「運動習慣定着化推進会議」を立ち上げる。 ※会議の構成委員は、市小・中学校体育連盟及びこれまでの研究校担当者等を中心に委嘱				

事業名	学校保健事業	担当課	保健体育課	予算額 (千円)	-
事業の概要	近年の青少年の薬物乱用の実態など子どもたちを取り巻く社会情勢から、学校薬剤師や警察職員等の専門家と連携して行う薬物乱用防止教室等の開催を支援する。				継続
現状と課題	子どもたちの健康な心と体を育成するため、家庭・地域・専門家等との連携した保健管理・保健教育の充実を図っている。近年、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、外部講師を用いた実施形態等は難しく、専門家の話を聞く機会が減っていたが、各校の工夫によって実施に努めている。				
今年度の重点	児童生徒が身に付けた知識・技術を今後の生活に活かせるように、家庭・地域・専門家等と連携した保健管理・保健教育の充実を図る。				

◆ 健やかな成長を促すための安全教育の充実

事業名	実践的安全教育総合支援事業	担当課	教育支援課	予算額 (千円)	615
事業の概要	<p>学校安全アドバイザーを学校に派遣し、児童生徒及び保護者、教職員等の危機管理意識の向上を図る。(6年サイクルの3年目で、5中学校区21校が対象)</p> <p>内容(災害安全、生活安全、交通安全)や形式(職員研修、児童生徒や保護者向けの講義、避難訓練に対する指導助言、危機管理マニュアルに対する指導助言等)は学校の実情に合わせて実施する。</p>				継続
現状と課題	<p>R5年度に実施した学校では、学校安全の三領域「災害安全(防災)」「生活安全」「交通安全」の中から、中学校区のテーマとして一つを取り上げ、中学校区で連携しながら安全教育の推進に取り組んだ。</p> <p>課題としては、学校安全計画や危機管理マニュアル等をより実践的なものになるように、中核教員等が中心となってアドバイザーとも相談しながら見直しを進めていくことが考えられる。</p>				
今年度の重点	<p>岡山市の学校における危機管理についての状況把握に努め、情報を分析し効果的な支援について検討する。また、学校安全アドバイザーからの助言を参考にしながら、危機管理マニュアル等の見直しを図り、学校安全の実効性を高めることに努める。</p>				

事業名	子どもの命を守る取組の推進	担当課	保健体育課	予算額 (千円)	2,659
事業の概要	<p>緊急時の対応に備えるため、市立学校にAEDを設置するとともに、AEDトレーナー・ダミー人形を増設し、学校に貸し出すことで、校内での実践的な研修に結び付ける。</p> <p>市立学校の管理職を対象に応急手当普及員研修会を実施し、すべての市立学校に応急手当普及員の資格を持った教職員を在籍させる。</p>				継続
現状と課題	<p>児童生徒のさらなる安全確保のため、貸出用AEDトレーナー等を増設するとともに、一次救命処置研修会に加え、消防局救急課と連携し、管理職を対象に応急手当普及員研修会を開催している。R5年度は新たに42人が応急手当普及員の資格を取得した。</p> <p>応急手当普及員資格は3年間有効であり、資格継続のための再講習を受講する必要があるため、対象者には必ず通知をし、各校で有資格者が在籍するようにしている。</p>				
今年度の重点	<p>有資格者の管理職が、校内研修などで積極的に伝達し、校内の危機管理に対する意識の向上と、体制の充実を図る。</p>				
他局・他課との連携	<p>教育委員会が研修会の企画立案を行い、消防局救急課が実習を担当している。</p>				

事業名	防災キャンプ推進事業	担当課	地域子育て支援課	予算額 (千円)	1,821
事業の概要	<p>公民館を中心として地域住民等による実行委員会を立ち上げ、児童・生徒等の青少年ならびに一般市民が、学校外で被災した場合、自らの生命を守ることができる防災技術や知識を学ぶ機会を設ける。また、防災教育の内容と成果の周知のため事例報告展を開催する。</p>				継続
現状と課題	<p>学区内すべての小学校で実施した中学校区があったり、児童・中学生の参加が増加した中学校区があるなど、事業は浸透してきていたが、コロナ禍により参加者数が大幅に減少した。コロナ禍で開催を見送るなどした学区に再開の動きがみられるなどしており、再度、事業の浸透を図る必要がある。</p>				
今年度の重点	<p>防災に関する技術や知識を地域住民と共に学ぶことで社会性を養うとともに、訓練を通じて技術や知識を実践できる活用力の向上を図る。</p>				

■ 施策3-2 食育の推進

施策の方向性

- 子ども自身に係る客観的な数値に基づいて食育を推進するなど、家庭、地域社会と連携しながら、より良い食習慣・生活習慣の定着を図ります。

◆ 健全な食習慣の形成を目指した学校園における食育の充実

事業名	学校給食における食育の推進	担当課	保健体育課	予算額 (千円)	—
事業の概要	給食の時間、特別活動や関連する各教科等において、校内での共通理解の下に、食に関する全体計画に基づいて、食育の推進に取り組むことができるよう支援する。				継続
現状と課題	H27年度作成した「岡山市の基本的な食に関する指導のカリキュラム」に沿って、中学校区で連携を図り、食育に取り組んできた。H31年3月に文部科学省より「食に関する指導の手引」の改訂を受け、R4年度に新学習指導要領に見合う岡山市のカリキュラムの改訂と指導案を通知し、R5年度より各学校で実践している。今後の課題として、クラス数の多い大規模校や複数校の食育を担う給食センターや兼務校の栄養教諭の授業参画が困難なことがあげられる。				
今年度の重点	学校給食における食育の推進において、R4年度に改訂した「岡山市の基本的な食に関する指導のカリキュラム」の内容を、各学校の食に関する指導の全体計画に取り入れ、実践の充実を図る。 会計年度任用職員(栄養士)の業務や栄養教諭の兼務校での業務を見直し、専門性を生かした食育の推進に取り組む。				

事業名	客観的な数値を活用した食育事業	担当課	保健体育課	予算額 (千円)	400
事業の概要	身体測定機器を用いた測定値や実態把握(データ)等の客観的な数値を示すことにより、成長期にある児童生徒に自らの生活を見直す機会を与え、食への興味関心を喚起し、よりよい食生活・生活習慣・健康意識を向上させる。身体測定機器として、ヘモグロビン推定値測定器・体組成計等を各学校に貸し出す。				継続
現状と課題	文部科学省の「平成26年度スーパー食育スクール事業」において「客観的指標を用いた食育による食生活の改善と学力向上につなげる取組」として取り組んだ。客観的なデータを用いた食育の取組の効果が認められたことから、成果の普及を図っている。 課題として、R5年度になり、昨年度まで中止していた試食会や給食運営委員会などの実施校が増えたため、身体測定機器を使用する機会が増加し、貸出し日が重なる場合がある。				
今年度の重点	ヘモグロビン測定器を購入し、貸出しを円滑に行う。 客観的な数値を活用した食育事業の取組を通して、食育の機会を増やし、よりよい食習慣・生活習慣の定着を図る。				

政策4

一人一人の育ちを支える指導・支援の充実

■ 施策4-1 一人一人を大切にしたい集団づくりの推進

施策の方向性

- 安心して学び合えることができる集団づくり、学級づくり、仲間づくりを進め、子どもが「学校が楽しい」と思える基盤づくりや、問題行動等の未然防止に取り組むとともに、「早期発見・早期対応」と「継続的な対応」を徹底します。

◆ 一人一人の子どもの個々の状態に合わせた支援による集団づくりの充実

事業名	生徒指導関係事業<総合支援>	担当課	教育支援課	予算額 (千円)	573
事業の概要	「しゃべりんびっく」を通して、各中学校区での生徒会活動の活性化を図る。中学校区で生徒指導上の連携を図るとともに、ASSESSの結果を活用した望ましい学級集団づくりの実践例を全市で共有することで、問題行動や不登校の未然防止を図る。多様な学びの場の整備を目指し、校内支援教室の調査研究事業を行う。				継続
現状と課題	昨年度は、参集により「しゃべりんびっく」を実施することができ、各学校の生徒会活動について情報交換ができた。行動観察とASSESS等の質問紙調査を活用することで、深い児童生徒理解に基づいた学級集団づくりを推進した。ASSESSを活用した、いじめの積極的な認知が学校に根付きつつあるが、解消に向けた取組と、学級集団づくりにつながるASSESSの活用方法が課題である。				
今年度の重点	一人一人を大切にしたい学級集団づくりの実現に向けて、一年間を見据え、計画的にASSESSが活用できるように、啓発していく。 児童生徒が安心して過ごせる環境づくりを行い、不登校の早期支援の充実を図る。				

◆ 落ち着いた教育環境をつくるための学校園の体制の充実

事業名	スクールカウンセラー配置事業<総合支援>	担当課	教育支援課	予算額 (千円)	56,000
事業の概要	スクールカウンセラーを小学校35校、中学校36校、義務教育学校1校、高等学校1校に配置し、いじめ、不登校等に関する児童生徒及びその保護者のカウンセリングや、教職員への助言及び教育相談の技法の研修等を実施する。 スクールカウンセラーの資質向上のために、スーパーバイザーを7人配置し、経験の浅いスクールカウンセラーへの助言や外部講師を招いた研修を実施する。				継続
現状と課題	不登校やいじめなど、様々な相談がスクールカウンセラーに寄せられており、学校内での需要の高まりがみられる。今後も、不安を抱えている児童生徒や保護者の心のケアを行うため、学校や学区の状況に合わせた配置校の検討が必要である。				
今年度の重点	スクールカウンセラーが教職員や児童生徒に向けた心理教育やコンサルテーションを積極的に行うことで、教育相談体制の充実を図る。また、教職員と連携した不登校対策をさらに推し進める。				

事業名	不登校児童生徒支援員配置事業<総合支援>	担当課	教育支援課	予算額 (千円)	56,700
事業の概要	不登校及び、その傾向のある児童生徒やその保護者に対して必要な援助を行うことにより、不登校の未然防止や解決に資するため、不登校児童生徒支援員を配置する。				継続
現状と課題	依然として高い本市の不登校出現率を抑制するため、子どもたちに積極的にかかわる意欲のある人材を学校に配置し、支援を行ってきた。 不登校児童生徒支援員による登校サポートや、別室での支援、保護者との連携により、児童生徒が登校しやすい環境を整えることに努めているが、小学校・中学校合わせた新規不登校出現率が増加しており、不登校の未然防止に向けた支援の充実が必要である。				
今年度の重点	新規不登校児童生徒数の減少に向けて、長期欠席の兆候が見られる児童生徒に対して、早期に組織的な支援を行うために校内の支援体制の充実を図り、不登校児童生徒支援員が他の教職員と連携して、より効果的な支援を行えるようにする。 ICTの活用による別室学習のサポートや学習・相談支援を行うことで、不登校の未然防止の支援をするために支援員の配置を拡充する。				

事業名	教育支援アドバイザー配置事業<総合支援>	担当課	教育支援課	予算額 (千円)	3,300
事業の概要	<p>学校教育または、青少年健全育成の経験を有する教育支援アドバイザーを小学校・義務教育学校へ配置する。 暴力行為やいじめ等の問題行動の未然防止に参画し、組織的な対応力の向上を支援する。 教職員と連携して生徒指導及び特別支援教育等の校内体制づくりを支援する。</p>				継続
現状と課題	<p>問題を抱えている学校は多いと考えられるが、教育支援アドバイザー配置の要望が少ない。配置された学校においては、確実に、教職員の対応力や体制強化に繋がったり、個に応じた対応や指導法の見直しにも繋がっている。課題としては、上記の取組について、すべての学校でどのように共有していくかが挙げられる。</p>				
今年度の重点	<p>様々な問題における初期対応について、教職員間で共有し、「チーム学校園」としての対応力の向上を目指すとともに、子どもにとって安心安全で居心地のよい学校づくりに向けて助言等を行う。</p>				

◆ 問題行動等の未然防止及び早期解決のための取組の充実

事業名	いじめ専門相談員派遣事業<総合支援>	担当課	教育支援課	予算額 (千円)	7,073
事業の概要	<p>公認心理師・臨床心理士の資格を持ついじめ専門相談員を2人配置し、学校からの要請を受けていじめ防止対策会議やケース会に出席したり、児童生徒や保護者の相談に当たったりする。また、性暴力による被害に関する相談を受ける。 「いじめ・性被害相談ダイヤル」に寄せられる電話相談や、面接相談に対応する。</p>				継続
現状と課題	<p>いじめの積極的認知を進めてきたことで、R4年度児童生徒の問題行動・不登校等児童生徒指導上の諸課題に関する調査で、いじめの認知件数は増加した。いじめの未然防止や、早期解決に向けた学校の体制づくりの更なる充実を図るため、いじめ専門相談員がいじめ防止対策会議やケース会に出席し、助言を行う回数を更に増やす必要があり、本事業の取組を各学校に周知する方法を検討していく。</p>				
今年度の重点	<p>学校との継続した連携、対応後の情報収集、事例検討を行うとともに、いじめ専門相談員の具体的な活用例の提示や広報の時期、方法を検討し、更なる活用を図る。</p>				

事業名	問題行動等対策事業<総合支援>	担当課	教育支援課	予算額 (千円)	750
事業の概要	<p>「いじめ防止対策推進法」の施行を受けて、教育委員会の附属機関として設置した「岡山市問題行動等対策委員会」において、いじめ等の問題行動の防止を実効的に行うための対策について審議する。 いじめの重大事態発生時には、事実関係を明確にするための調査を実施する。</p>				継続
現状と課題	<p>「岡山市問題行動等対策委員会」において、いじめ等の問題行動の防止を実効的に行うための対策について審議した。また、昨年度は、いじめ重大事態の調査に関するガイドラインについて審議した。今後も、客観的で多角的な専門家の意見を聴取する会の運営が必要である。</p>				
今年度の重点	<p>問題行動やいじめ、不登校の課題の分析と、防止等のための効果的な施策等について、専門的な見地から審議する。</p>				

■ 施策4-2 一人一人の課題に応じたきめ細かな支援

施策の方向性

- 多様な背景をもつなど、支援や配慮を必要とする子どもが安心して学校生活を送ることができるよう、関係局や医療・福祉等の関係機関と連携し、専門的な相談ができる体制づくりや校内の支援体制の充実を進めます。

◆ 支援や配慮を必要とする子どもが安心して学校生活を送るための支援体制の充実

事業名	就学援助事業	担当課	就学課	予算額 (千円)	794,377
事業の概要	学校教育法第19条の規定に基づき、経済的な理由で就学困難な児童・生徒の保護者に対して、学用品費、学校給食費、修学旅行費等の就学援助費を支給する。				継続
現状と課題	各方面から、就学援助費の支給費目の拡大、支給額の増額、支給対象者の私学世帯への拡大を求める声がある。				
今年度の重点	今年度、国の単価改訂に合わせて小学校の新入学準備費を増額する(昨年度は中学校の新入学準備費を増額)。また、今年度から、支給対象者を私学世帯に拡大する。				

事業名	共に生きる子どもを育てる障害児支援事業	担当課	教育支援課	予算額 (千円)	356,383
事業の概要	<p>「特別支援教育支援員」、「看護支援員」、「生活支援員」を学校に配置し、障害がある子どもの学校生活及び学校行事における支援や介助、並びに周囲の児童生徒の障害に対する理解の促進等の業務を行う。</p> <p>特別支援教育の視点を生かした授業づくりを推進するため、実践研究校を指定して、効果的な指導方法や指導内容を研究し、市内の学校に広める。</p> <p>学校から特別支援教育に関する相談を受け、専門家から助言を行う。</p> <p>医療的ケア相談員を配置し、安全に医療的ケアが実施できる体制づくりを進める。</p> <p>就学相談員を小・義務教育学校へ派遣し、就学相談や園への訪問を通じた適切な就学支援を進める。</p> <p>医師、大学教員等を委員とした「特別支援連携協議会」を開催し、岡山市の特別支援教育の方向性について協議する。</p>				拡充
現状と課題	障害の特性に合わせた支援や配慮を必要とする子どもたちが適切な学びの場で教育を受けられるように、通常の学級及び特別支援学級の学級経営や授業づくりを充実させ、実態に応じた支援を行い、学級への所属感を高める取組を充実させることが必要である。				
今年度の重点	特別支援連携協議会を開催し、様々な方面の専門家から意見を聴取し、協議することで、岡山市の目指すべき特別支援教育の方向性について検討を進めていく。 「特別支援教育支援員」や「看護支援員」に加え「生活支援員」を学校に配置し、個に応じた支援の充実を図る。				
他局・他課との連携	発達障害者支援センター、障害福祉課(特別支援連携協議会の開催)				

事業名	日本語教育推進事業	担当課	学校指導課	予算額 (千円)	3,940
事業の概要	帰国・外国人児童生徒のうち、日本語での会話が十分にできない児童生徒が学校へ適応できるよう、日本語指導支援員の派遣、携帯型翻訳機の貸出、指導用教材教具の充実を通して、日本語指導支援及び適応支援等を実施する。				継続
現状と課題	日本語指導が必要な子どもに対して日本語指導支援員を派遣し、特別の教育課程を編成して取り出し指導を行うことで日常生活に必要な日本語の習得及び学校生活への適応に対する支援を実施している。R元年に「日本語教育の推進に関する法律」が施行され、日本語指導等の充実が求められている。今後は母語の多様化への対応や、より子どもの実態に適した指導を行うなど支援体制を充実させていく必要がある。				
今年度の重点	支援や配慮を必要とする子どもが安心して学校生活を送り、主体的に学び続けることができるように、支援体制づくりや翻訳機の活用など、子どもの実態に応じた指導の工夫や支援を行う。				

政策5

学校園の教育環境の充実

■ 施策5-1 教職員の資質・能力の向上と支援体制の充実

施策の方向性

- 教職員の人権感覚を含む資質・能力向上に資するため、子どもの情報活用能力(情報モラルを含む)の育成など、喫緊の課題に対応しながら教職員研修の充実を図るとともに、若手教職員の授業力等の向上に係る取組を推進します。
- 教職員が、教材研究などに専念する時間や、子ども一人一人と向き合う時間の確保によって子どもの成長を実感し、やりがいを感じられるよう、教職員への支援体制を充実させます。

◆ 教育力向上のための優秀な人材の確保

事業名	魅力ある教員の確保事業	担当課	教職員課	予算額 (千円)	15,210
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 岡山市の求める教職員(「自立に向かって成長する子どもの育成」を推進する教員)を確保するための問題作成及び選考を実施 ○ 現任教員を対象とした採用試験については、既存の採用試験とは別枠で実施 ○ 情熱ある人材確保のため、従来のパンフレットの作成や大学説明会などの広報活動に加え、ニーズに合ったWebサイトを作成 				拡充
現状と課題	全国的に教員採用試験の出願者数は減少傾向にあり、岡山市も同じ状況下にある。本事業では、岡山市が求める人材を今後も引き続き確保していくために、広く県内外に、岡山市の教育や教職の魅力を実感し、出願者数を今より増加させていくことが課題である。併せて、大学生が抱えている教職に対する不安や悩みを解消していくことや、県外現職者(IUJターン対象者)に岡山市の教職について伝えていく必要もある。				
今年度の重点	岡山市の魅力や教職の仕事に対する魅力が県内外の志願者に伝わるようなポスターやパンフレット、動画の作成を行うとともに、教職員課ホームページも一新させる。OB、OGの参加型大学説明会(オンラインを含む)は継続して実施し、教員養成セミナーと併せて岡山市の教職の仕事のみならず、働き方改革についても広報していく。また、既卒者及び県外現職者(IUJターン対象者)に向けても説明会等を実施し、さらなる志願者確保に務める。				

◆ 教職員研修や教育研究の取組を通じた教職員の資質・能力の向上

事業名	学校園における人権教育の充実	担当課	学校指導課 幼保運営課	予算額 (千円)	1,680
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校区及び学校園で行う人権教育研修の開催支援、人権教育に関する資料の作成・配付 ○ 研究校を指定した人権尊重の理念に基づく教育の在り方についての実践研修の実施 				継続
現状と課題	中学校区における教職員対象の人権教育研修や各学校園が主体となって行う研修に対し、人権教育に関する資料を配付・提供したり、講師謝礼金の補助などの開催支援等を行っている。学校園では、多様な背景をもつ子どもたちへの支援が求められており、教職員が人権課題を正しく理解し、人権感覚を高めていくことで一人一人の子どもたちへの適切な指導や支援を実現していくことが必要である。				
今年度の重点	学校園で人権尊重の理念に基づく教育が推進されるよう、人権課題や多様な背景をもつ子どもたちの理解が促進され、人権が尊重される授業づくり、環境づくり、人権関係づくり等が充実するための研修資料や講師に関する情報の提供を行う。				

事業名	教職員研修事業	担当課	教育研究研修センター 幼保運営課	予算額 (千円)	9,510
事業の概要	岡山市教員等育成指標に示す資質・能力向上を目指し、教職経験年数や担当する職務、岡山市の教育課題等に応じた系統的・効果的な教職員研修を実施する。				
現状と課題	岡山市教員等育成指標に示す資質・能力向上を目指し、教職経験年数や担当する職務、岡山市の教育課題等に応じた教職員研修を計画的に実施するとともに、集合研修、遠隔研修、オンデマンド研修、それぞれのよさを生かした研修形態を工夫してきた。 今後は、管理職等のマネジメントの下で主体的・自律的に学ぶ教職員を育成することができるよう、教職員研修の内容・方法の充実を図るとともに、研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励が効果的に行われるようにしていく必要がある。				
今年度の重点	個別最適・協働的な教師の学びを実現させるために教職員研修の内容・方法のさらなる充実を図る。また、研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励が効果的に行われるようにしていく。これにより「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現を目指す。				

事業名	OJT若手教員育成支援プロジェクト	担当課	教育研究研修センター	予算額(千円)	教職員研修費に含まれる。
事業の概要	OJT支援員による若手教職員の授業力等の向上を図るための直接支援及びOJTに関する学校の課題解決のための支援を実施する。				継続
現状と課題	知識と経験の豊富な教職経験を有するOJT支援員(退職教員)が直接学校に出向き、各校が抱える若手教職員の育成に関する課題の解決のための支援を実施してきた。また、OJT支援に活用できる映像資料等を作成してきた。 今後は、市内全小学校・中学校・義務教育学校における若手教員の人材育成及びそのための校内の体制づくりを更に推進する必要がある。				
今年度の重点	子どもの資質・能力を育成するために、学校全体で若手教員の授業力等の向上を図ることができるようにする。そのため、若手教員への直接支援とともに、 <u>学校が、若手教員育成支援体制の構築・充実を図ることができるよう、OJT支援員が学校に訪問し若手教員育成支援体制について助言を行う。</u>				

事業名	教職員の力量を高める教育研究事業	担当課	教育研究研修センター	予算額(千円)	1,337
事業の概要	校内での研究・研修に役立つ調査研究の実施及び教育情報の提供				継続
現状と課題	教職員の資質向上に向けて、学校組織の活性化や校内での研究・研修を支援できるよう調査研究及び教育情報を提供してきた。 今後は、これまでに作成した研究成果物のより一層の活用を促進するとともに、教員自身が学校に配備された1人1台端末を有効活用して校内研修の活性化を図ることができるように、活用の推進を図る必要がある。				
今年度の重点	学び続ける教職員として、日常的なOJT、校内研修を充実させていくために、これまでに作成した研究成果物や動画コンテンツの活用を促進するための周知方法と活用方法を工夫する。特に、研究成果物の周知方法や提供方法を工夫するとともに、1人1台端末を活用した校内研修の進め方等の情報提供を行う。				

事業名	ICT活用指導力向上事業	担当課	教育研究研修センター	予算額(千円)	175,058
事業の概要	情報活用能力(情報モラルを含む)の指導に対応するための、教員のICT活用指導力の向上を図る。 ICTを効果的に活用した「分かりやすく楽しい」授業づくりができる教員の育成を図る。				拡充
現状と課題	これまで、ICTに関する研修の充実やICT支援員の配置などを進めてきたことで、1人1台端末を扱う基礎的な知識やスキルを身に付け、授業等においてICTを活用できる教職員が増えてきている。しかし、効果的にICTを活用することについてはまだ不十分である。本事業で、ICTを効果的に活用した授業づくりの支援を継続していく必要がある。				
今年度の重点	経験年数やスキルに応じた研修の実施等により、ICT活用に関する教員の資質・能力の向上を目指す。また、ICT支援員の配置により、ICTを活用した授業づくりをする教員をサポートするとともに、ニーズに合わせた校内研修を実施し、 <u>導入したデジタルAIドリルや授業支援ソフト等を効果的に活用した授業が展開できるようにする。</u>				

◆ 教職員への支援体制の充実

事業名	学校問題解決サポート事業<総合支援>	担当課	教育支援課	予算額(千円)	11,335
事業の概要	学校だけでは解決困難な事案について、サポートチーム(弁護士、精神科医師等の専門家)による助言・支援の実施、重大事案やケース会議等に、弁護士等の専門家を派遣する。 学校の対応力向上を目的として、弁護士を講師とした教職員研修を実施する。				継続
現状と課題	いじめ等の重大な事案が発生した場合、保護者からの要求において、法的観点にそった対応を必要とするケースが多く見られる。研修会やケース会等で弁護士等の専門家の意見を積極的に聞いたり、協議を交わしたりする機会を増やすことで、解決や改善への対応力が向上するよう、支援を充実していくことが必要である。				
今年度の重点	学校における解決困難な事案について、弁護士、医師、臨床心理士等と連携を図りながら、事案の深刻化、長期化を防ぐ。				

事業名	学校業務アシスト事業	担当課	教職員課	予算額 (千円)	108,000
事業の概要	小中義務教育学校において、教員の事務処理等の業務軽減と、子どもと向き合う時間の充実を図るため、教員が行っている専門性を必ずしも必要としない事務処理等の業務の一部を教員業務アシスト職員が行う。各学校に1週間あたり10～35時間配置する。				継続
現状と課題	岡山市立すべての小中義務教育学校へ学校業務アシスト職員を配置することで、「子どもと向き合う時間の確保につながった」と肯定的な回答をした教員の割合は94.6%と高い割合を維持している。引き続き、各校の有効な活用事例を共有するとともに、安定的な人材確保に努める。さらに、学校業務アシスト職員が行える業務を増やすなどして、本事業の効果を高めていくことが必要である。				
今年度の重点	各校の有効な活用事例を共有すること、安定的な人材確保に努めることに加え、学校業務アシスト職員が行える業務を増やすことで、教職員への支援体制の充実を図る。教員が行っている専門性を必ずしも必要としない事務処理等の業務の一部を教員業務アシスト職員が行うことにより、教材研究等に専念する時間や、子ども一人一人と向き合う時間を確保し、学力の向上や問題行動等の解決に向けた取組を支え、教員の働き方改革をさらに推進する。				

事業名	部活動指導員配置事業	担当課	保健体育課	予算額 (千円)	30,723
事業の概要	中学校、高等学校を対象とし、運動部は75人程度、文化部は20人程度の部活動指導員(会計年度任用職員)を配置し、運動部、吹奏楽部には年間240時間(月約20時間)、文化部には年間90時間(月約7時間)を上限として、部活動指導を行う。				継続
現状と課題	概ね学校の配置希望と指導員のマッチングはでき、各校の希望に沿うことはできている。しかし、競技種目によっては新たな人材の確保が困難であるなど、課題もある。				
今年度の重点	学校と部活動指導員のニーズに合わせた配置により、教職員の負担軽減を行う。				
他局・他課との連携	学校指導課(部活動の充実)、スポーツ振興課、文化振興課(部活動の地域移行)				

事業名	デジタル採点システムの導入	担当課	学校指導課	予算額 (千円)	学びづくり推進プロジェクト費に含まれる。
事業の概要	岡山市立の中学校(義務教育学校後期課程を含む)・高等学校に、デジタル採点システムを導入する。				新規
現状と課題	中学校・高等学校では、生徒の学習内容の定着や誤答の傾向を把握するため、テスト等を行っている。必要なことであるが、採点・得点集計作業が多岐に渡り、多くの時間を必要としている。				
今年度の重点	デジタル採点システムを導入することで、採点時間・得点集計時間を削減し、教材研究や子どもと向き合う時間を確保する。 テスト結果からの子どもの実態把握や誤答の傾向把握を簡易化し、指導の改善につながることも期待している。				
他局・他課との連携	教育給与課(働き方改革)				

事業名	新教育研究研修センター(仮称)整備事業	担当課	教育研究研修センター	予算額 (千円)	47,000
事業の概要	子どもたちの成長を支える教職員の資質・能力向上に資する教育研究研修センターの整備を図る。				継続
現状と課題	現施設で研修を実施する場合、60名以上の受講者を収容することのできる研修室がなく、現施設における駐車可能台数も不十分である。 外部施設はWi-Fi環境が不十分で、遠隔研修の実施ができにくい。年間利用回数に制限がある施設もある。				
今年度の重点	子どもたちの成長を支える教職員の資質・能力向上に資する教育研究研修センター整備のために、設計及び地質調査の委託に関する事務に取り組む。				
他局・他課との連携	都市整備局公共建築課(技術支援)、岡山っ子育成局幼保運営課(機能面)				

■ 施策5-2 安全・安心で快適な教育環境の整備

施策の方向性

- 安心して学べる教育環境の充実に向けて、より良い学習環境・学校生活に配慮した施設の整備等を行います。
- 多様な学びの機会を保障し、質の高い教育を目指すため、ICT環境等の充実に努めます。

◆ ICT環境や学校図書館などの充実

事業名	学校図書館の充実	担当課	学校指導課	予算額 (千円)	80,069
事業の概要	○ 各学校の教育内容と子どもの興味・関心に合った図書資料を計画的に整備 ○ 古くて利用価値の低くなった図書資料の更新を進め、内容の充実を図りながら、学校図書館図書標準を維持				継続
現状と課題	学校図書館図書整備10か年計画(H26～R5)により、ほとんどの学校で学校図書館図書標準を達成し、経年により利用価値の低くなった図書の更新を進めてきた。今後も学校図書館図書標準を維持しながら、利用価値の低くなった図書の更新を進める必要がある。				
今年度の重点	各学校の教育内容と子どもの興味・関心に合った図書資料を整備し、 <u>一人一人に応じた学習活動や読書活動に取り組むことができるようにし、情報活用能力等を育成できる環境づくり</u> を目指す。そのために学校図書館図書標準を維持しながら、内容が古くなり、利用価値が低くなった図書等を更新する。				

事業名	ICT環境整備事業	担当課	教育研究研修センター	予算額 (千円)	723,896
事業の概要	○ 端末などの機器やネットワーク、校務支援システムなどのICT環境の整備と運用及び更新 ○ 機器等の障害対応やセキュリティ対策など、安定的な運用に向けた支援				継続
現状と課題	国のGIGAスクール構想に伴う1人1台端末や無線LANネットワーク整備を行ってきたが、学校で扱うICT機器や通信容量の増加などにより、故障や破損などの障害も増えている。本事業において、授業や校務に支障なく、教職員の負担軽減をするために、学校へのサポートをさらに充実させていく必要がある。				
今年度の重点	GIGAスクール運営支援センターによる障害対応や設定等にかかる支援、校務用端末の更新、教育委員会による端末の一括管理や「岡山市教育情報セキュリティポリシー」の策定・周知等のセキュリティ対策の徹底を図ることで、ICT機器等が安定的に稼働し、安心して安全なICT活用が、学校で日々展開されるようにする。そのことにより、子どもの主体的なICT活用を促進する。また、モバイルWi-Fiルータを追加配備し、Wi-Fi環境が無い場所(体育館や屋外等)での1人1台端末の利用を可能とすることで、さらなるICT活用推進を図る。さらに岡山市で統一して導入した保護者連絡ツールの機能改善や運用拡大を行い、教職員の一層の負担軽減を図る。				
他課・他局との連携	「岡山市役所公式LINE」の一部として「保護者連絡ツール」を導入している。(広報広聴課・デジタル推進課)				

◆ より良い学習環境・学校生活に配慮した施設の整備による教育環境の充実

事業名	学校施設長寿命化改修事業	担当課	学校施設課	予算額 (千円)	912,312
事業の概要	学校施設の老朽化対策や教育環境の質的改善による再生整備と、計画的な予防保全による施設の長寿命化により、中長期的なトータルコストの縮減、財政負担の平準化を図る。				
現状と課題	改修費が膨大な額となることから、経費の削減と平準化、財源確保を考慮しなければならないが、全体事業量を縮小することは難しく、改修の規模や手法についてはさらなる検討が必要である。 また、将来を見据えた改修を行う必要があり、学校の適正規模化や、教室の仕様見直し(ICT等)など整備基準の更新等、関係課との調整が必要である。				
今年度の重点	安心して学べる教育環境の充実に向けて、引き続き施設整備を行い、ハード面の質的改善を推進する。				

事業名	義務教育学校施設整備事業	担当課	学校施設課	予算額 (千円)	56,000
事業の概要	子どもの減少が進む山南中学校区の4小学校及び1中学校を統合し、県内初となる義務教育学校を設立するため、山南中学校の敷地に校舎の増築及び既存校舎の改修を実施する。				継続
現状と課題	開校後の施設整備を安全に進めていく。				
今年度の重点	安心して学べる教育環境の充実に向けて、義務教育学校施設整備の最後の項目となる既存棟のトイレ改修を進める。				

事業名	学校空調設備整備事業	担当課	学校施設課	予算額 (千円)	4,977,800
事業の概要	小中学校の特別教室等へ空調設備を整備する。				拡充
現状と課題	R2年度の夏までに全ての小中学校の普通教室に空調設備を整備し、学びに集中できる教室環境が整った。特別教室等への空調設備は整備していない。				
今年度の重点	安全・安心で快適な教育環境の整備に向けて、R7年夏前までに全ての小中学校の特別教室等へ空調設備を整備するための設計・施工を行う。				

事業名	学校給食施設再整備事業	担当課	保健体育課	予算額 (千円)	178,000
事業の概要	将来にわたって安全で安心な学校給食を安定的、継続的に提供するため、学校給食施設の再整備を推進する。				拡充
現状と課題	多くの学校給食施設が、S40年代から60年代に整備されたものであり、築後経過年数による老朽化への対応が喫緊の課題となっており、また、耐震基準を満たしておらず、早期に安全対策を講じなければならない施設もある。 さらに、今後の児童生徒の人口推計や、学校給食に求められる衛生管理のさらなる徹底、「食育」の推進、「食物アレルギー対応」などの学校給食が直面する諸課題へ対応する必要がある。				
今年度の重点	PFI手法の活用により、R8年2学期からの供用開始に向けて「新岡山学校給食センター(仮称)」の整備を推進していく。 早期に安全対策を講じていく必要があるため、建築後約50年を経過し、耐震性能を満たしていない「建部学校給食センター」の安全対策事業を実施していく。 計画的かつ円滑に給食調理場の再整備を推進するための全体計画として、「学校給食施設再整備計画」の策定に着手していく。				
他局・他課との連携	公共建築課、下水道管路整備課(設計及び工事)				

政策6

家庭、地域社会の教育環境の充実

■ 施策6-1 家庭の教育力向上への支援

施策の方向性

- 家庭教育の啓発や家庭教育に関する学習機会の提供、家庭教育支援団体相互のネットワーク強化などを通して、家庭教育を支援し、家庭における人権感覚を含めた教育力の向上を図ります。

◆ 家庭教育や子育て支援の充実

事業名	PTAにおける人権教育の充実	担当課	学校指導課 幼保運営課	予算額 (千円)	1,999
事業の概要	保護者の人権意識の高揚を図り、家庭教育力を高めることで、子どもたちの人権尊重の精神を育む。 ・ PTAを対象とした人権教育研修会の開催 ・ 学校ごとのPTAで行う人権教育研修における資料提供や外部講師謝礼金の補助				継続
現状と課題	定期的な主催研修会の実施や学校ごとのPTAによる人権教育研修の開催支援により、PTAを対象とした人権学習の機会の提供に努めてきた。人権課題の多様化・複雑化を踏まえ、より主体的な研修の場になるよう、研修内容の充実を図るとともに研修方法等の工夫を行っていく必要がある。				
今年度の重点	社会の動向や保護者のニーズに合った研修内容を設定することにより、家庭における人権意識向上に向けた支援を行う。				

事業名	家庭教育支援事業	担当課	生涯学習課	予算額 (千円)	710
事業の概要	家庭教育に関する情報や相談機会を提供するイベントの開催、アドバイザーの派遣、家庭教育のポイントをまとめたリーフレットの配布など、家庭教育の重要性について周知や啓発を行い、保護者の主体的な取組を促す。				継続
現状と課題	家庭の教育力向上に向けて、子育ての悩み等の様々な課題を抱える保護者等に対して、啓発・支援等の取組を行っているが、子どもに関する課題は複雑化、多様化しており、また家庭環境も大きく変化してきている。今後、学校と家庭との連携強化を図るとともに、保護者等が子育てについて学んだり、情報を得たりする機会を増やしていく必要がある。また、家庭教育に関する効果的な支援について検討していく。				
今年度の重点	自立に向かって成長する子どもの育成に向けて、家庭教育や子育てに関する情報や学習機会の提供等を通じて、家庭における教育力の向上を図ることで <u>子どもの社会性の伸長</u> につなげる。 また、 <u>社会や地域全体で家庭を支援していくことができるように、家庭で子どもに身につけさせたい力等</u> について、SNS等を活用して周知・啓発を行うとともに、 <u>子育てに関する支援団体相互のネットワークの強化等</u> を図っていく。				

事業名	スクールランチセミナーの充実	担当課	保健体育課	予算額 (千円)	—
事業の概要	食生活に関心をもたせるとともに、望ましい食習慣を身につけることができるようにするために、中学校区や学校単独で栄養教諭・学校栄養職員が中心となり、小学校1年生～中学校3年生の児童生徒と保護者を対象に食育活動を実施する。				継続
現状と課題	本事業は学校だけでなく家庭や地域と連携して、H5年度から実施し、H18年度からはテーマを「朝ごはん」に関わりをもたせる内容とし、各中学校区や学校の実態に合わせ、調理実習と食育指導を行うスクールランチセミナーに取り組んできた。R4年度から、集合型の調理実習をメインとした取組だけでなく、朝食レシピ配付や動画配信など形を変え取り組んでいる。端末を使った取組により、中学生の参加者は増加したが、参加者の感想や家庭で実践したかどうかなど、参加者の反応が分かりにくい。				
今年度の重点	スクールランチセミナーをより効果的に実施するため、 <u>料理教室で調理に興味をもたせたり、食育体験活動などの食に関する指導</u> を行ったりすることにより、 <u>子どもが家庭でできる工夫</u> を行い、子ども自身に正しい食生活を身に付くようにする。				

事業名	絵本の読み聞かせ事業	担当課	中央図書館	予算額 (千円)	—
事業の概要	1歳くらいまでの赤ちゃんとその保護者を対象に、中央図書館、幸町図書館では定期的に、西大寺緑花公園緑の図書室では随時絵本の読み聞かせ体験会を開催し、読み聞かせの楽しさやふれあいの時間の大切さを保護者に伝える。その際に絵本の選び方、読み聞かせに関するアドバイスなどを記載したプログラムを参加者に配布する。読み聞かせの楽しさを体験してもらうことで、子どもや保護者が本に親しむ機会を作る。				継続
現状と課題	R5年度も年度当初は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加者の人数を制限して行事を開催した。5類移行後は参加者数の制限がなくなり、目標値に近い参加人数を見込んでいる。参加者の満足度は高い傾向である。 実施回数や広報の見直し等により参加機会を拡大し、参加者数の増加につなげるよう検討する。				
今年度の重点	読み聞かせのプログラムを組む際には、赤ちゃんに興味を持ってもらえるように、視覚や聴覚に訴える本(線や色がはっきりした本、オノマトペの本)を選んでいる。また、 <u>わらべうたやふれあひあそびを導入し、保護者に読み聞かせのコツを掴んでもらい自ら実践してもらえる行事となるよう工夫している。</u> 絵本の読み聞かせの行事を継続的にを行い、参加の機会を増やしていくことで、家庭における子どもの読書習慣の形成につなげられるよう努める。				
他局・他課との連携	健康づくり課(「こんにちは赤ちゃん事業(ブックスタート)」では絵本の選定、絵本リーフレット・読み聞かせ体験案内の配布。愛育委員研修への講師派遣。)				

事業名	子育て支援「のびのび親子広場」事業	担当課	幼保運営課	予算額 (千円)	59
事業の概要	子育て支援の一層の充実を図るため、市立幼稚園・認定こども園の施設を開放し、未就園児が園庭で遊んだり、保育活動に参加したりすることができる機会を提供する。 安心して子育てができるよう、保護者の不安や悩みに応える子育て講座・子育て相談等の実施や、子どもの発達や子育ての様々な情報を提供する。				継続
現状と課題	地域に根差した子育て交流の場として、市立幼稚園・認定こども園、全園で実施している。 各園では、未就園児が参加する保育活動を工夫し、園児が取り組んでいる遊びの他、園によっては七夕会や水遊びなどの体験活動ができるようにしている。参加者からは「多くの友達に囲まれて遊ぶ経験ができた」「また来たい」「先生の声掛けが参考になった」等の声が聞かれた。保護者・子どもにとって、入園前の不安を軽減したり、場や人に慣れたりする良い機会となったと思われる。 今後も各園の実情に応じて、できることを工夫しながら進めていく必要がある。				
今年度の重点	子育て支援の一層の充実を図るために、未就園児が園で遊ぶ中で遊具に親しんだり園児や教職員と交流したりできるよう、 <u>機会の提供や施設の開放をするとともに、保護者が安心して子育てができるよう、子育て相談等の実施や子どもの発達や子育ての様々な情報を提供していく。</u>				

■ 施策6-2 地域社会の教育環境の充実

施策の方向性

- 地域学校協働活動推進員を通して学校支援ボランティアの活動を充実するなど、地域ぐるみで学校園を支える体制づくりを進めるとともに、地域の教育力向上を図ります。
- 社会教育施設等を活用し、地域の多様な人々と連携し、学びを通じた持続可能な地域づくりの取組の充実を図ります。

◆ 生涯にわたって学び続ける機会と場の充実

事業名	インターネット予約図書事業	担当課	中央図書館	予算額 (千円)	11,049
事業の概要	全市的な図書館サービスの充実を図るため、利用者が、インターネット予約した図書を図書館以外の窓口(高松・福田・高島・吉備・操山・上道の6公民館)においても受け取れるように図書館システム、図書資料の整備を行うもの。				継続
現状と課題	6公民館での運用方法の平準化と、より詳しいマニュアル作成等を進めることにより、効率的な事業実施を図っている。R5年度は、事業実施公民館との意見交換会を行い、そこで出された意見や課題等への対応も進めている。 実施館の成果と運用方法・コスト面などを踏まえながら、今後、市民がインターネット予約をより効果的に活用できるようにするための方策を検討する。				
今年度の重点	事業を実施している6館で、公民館の地域拠点としての機能を活かし、子ども・家族など多世代の市民が図書資料をより利用しやすい環境を整えるため、意見交換会を継続して行き、運用を改善するとともに図書の入替え等、配本の工夫にも努める。				

事業名	図書館業務システム更新による 市民サービスの向上	担当課	中央図書館	予算額 (千円)	18,439
事業の概要	図書館業務システムは、利用者が必要とする図書を検索したり、読みたい本を予約する等の利便性の確保と職員が図書館サービス提供のため業務管理全般を電算システムで行うものであり、現行システムでは、インターネット予約図書受取公民館を拡充するなど利便性の向上を図った。また、R8年3月のシステム更新に向けて、新しい技術を活用し、サービスの向上を図るもの。				継続
現状と課題	次期システムの導入にあたっては、DX等による新たな技術を活用し、サービス向上が図れるよう、機能充実の検討を行う必要がある。				
今年度の重点	子どもたちをはじめあらゆる世代の探求心や好奇心を刺激するための情報発信や、自ら情報を収集して活用する図書資料の検索機能へアクセスしやすくする工夫や使い方の普及についても検討し、次期システムでは、これまで図書館を利用したことのない市民の利用促進につながるよう機能充実の検討を進める。				

事業名	連携中枢都市圏図書館相互利用	担当課	中央図書館	予算額 (千円)	2,229
事業の概要	H29年11月から、岡山連携中枢都市圏に参加する自治体のうち、4市4町(玉野市、備前市、赤磐市、真庭市、和気町、早島町、美咲町、吉備中央町)と、図書館相互利用(図書の貸出等)を実施。H30年10月より瀬戸内市、H31年4月から津山市、R3年4月に久米南町が参加し、6市5町で利用可能となる。 H31年1月から相互返却(借りた図書館以外の図書館への返却)を開始。				継続
現状と課題	コロナ禍や岡山市立中央図書館の改修工事の休館などでR2・3年度の利用が伸びていないが、R4年度からは圏域住民一人当たりの貸出数も戻りつつある。コロナ禍前と同様の利用の伸びにつながる取組をしていく必要がある。				
今年度の重点	身近な図書館だけでなく、 <u>他市町の図書館に出かけて利用してもらうことで、新しい資料の発見や、様々な図書館の活用方法を知ってもらう。</u> 連携市町の図書館の魅力が分かるパンフレットとともに、図書館相互利用の利用時の案内チラシを作成し、図書館利用者だけでなく、より多くの人にPRできるよう各市町で配布し、新しい利用者の開拓に努める。				

事業名	公民館ESD・SDGs活動推進事業	担当課	生涯学習課	予算額 (千円)	2,500
事業の概要	地域の文化や環境を守り発展させ、将来へ繋ぐというESDの視点から、防災・環境保護・多文化共生・食の安全・子育てなどの身近な暮らしをテーマにした講座やワークショップを開催する。また、岡山ESD推進協議会など本市のSDGs・ESDの重点テーマと連動した取組の推進をはかる。さらに2014年の世界会議の成果を継承し、グローバルな視野を持った公民館活動を行うため、国内外の多様な社会教育関係者と住民とで、お互いの実践を高め合い学び合う交流機会をつくる。				継続
現状と課題	公民館基本方針の中にESDの視点を盛り込み、全公民館で地域課題に即した講座や地域ワークショップなどを実施している。また、関係機関とともに、ESDに関する交流会や学習会を企画し、協働した取組を進めている。しかしながら、SDGsやESDとの関連づけを明確に打ち出した講座は一部に留まっている。地域におけるSDGsやESDの取組の活性化に向けて、様々な関係者との連携をはかりながら、SDGsやESDとの関連を明確にした講座を増やすことが必要である。				
今年度の重点	SDGsやESDの各目標との関連を示した講座を増やす。 公民館基本方針重点4分野「地域づくり」「地域防災」「若者の地域参画」「地域福祉・共生」をテーマにした持続可能な社会づくりについて学ぶ市民参加の学習会(公民館大会)を実施する。				
他局・他課との連携	市民協働局(SDGs・ESD推進課、市民協働企画総務課、国際課)、環境局(環境事業課)などと、連携して講座を企画・実施する。				

事業名	公民館運営事業(公民館基本方針の推進)	担当課	生涯学習課	予算額 (千円)	19,390
事業の概要	「岡山市立公民館基本方針」に基づき、「地域づくり」「地域防災」「若者の地域参画」「地域福祉・共生」の4分野を、重点分野と位置付け、複数の講座や実践活動を連動させたプロジェクト型の取組として重点的に進める。また、あわせて「環境」「人権・男女共同参画」「健康づくり」「子育て」「長寿社会」「地域のICT」の6分野の講座の企画・運営を全館で行う。事業実施にあたっては、開かれた公民館づくりをめざし、市民や関係団体との連携をはかり、持続可能な社会づくりに貢献する公民館をめざす。公民館振興室では、先導的な事業を企画し、基本方針の推進をはかる。				継続
現状と課題	全市的な社会課題である10の分野について、各館で主催講座として各1事業以上取り組み、地域課題解決に向けた学習機会を提供するとともに、市民自身が課題解決力を習得できるような講座を行っている。特に、「地域づくり」「地域防災」「若者の地域参画」「地域福祉・共生」の4分野を重点分野と位置付け、目標を明確化して、取組の充実を図っている。 重点分野に位置付けた取組を、持続可能な人づくり、地域づくりにつなげていくために、充実してきた若者の参画、防災などの取組を全市的に広げ、くことが必要である。 また、急速に進む地域サービスのDX利用など、基本方針策定時にはなかった課題への対応も必要になっている。				
今年度の重点	重点4分野の取組を進める。特に若者の地域参画の推進とあわせて、子どもの体験の機会を増やしていく。 今日的な地域社会の課題やニーズに応じた事業を行い、公民館で学習や地域活動を行う人を増加させる。 新たなICT技術などを利用できる人を増やす講座を継続的に実施する。				
他局・他課との連携	講座や地域活動支援で関係する各局(市民協働局、保健福祉局、危機管理室、市民生活局、環境局など)				

事業名	二十歳の集い事業	担当課	地域子育て支援課	予算額 (千円)	11,476
事業の概要	H12年度から当該年度に二十歳を迎える対象者を構成員とした実行委員会を組織し、自らの節目となる二十歳の集いについて、より積極的に企画を立案し、当日の運営までを実施している。 年間約20回の実行委員会を開催し、式に向けて企画・展示の内容や運営方法について準備し、当日は実行委員会のメンバーで式典も挙行している。				継続
現状と課題	会場をシティライトスタジアムに変更して3年目となった。R5年度は4年ぶりの一部制での開催となり、昨年度を上回る対象者の来場につながった。 今後さらに、二十歳の集いの目的である「対象者の責任や自覚を促す機会の提供」、「『市民』としての自覚をもって考え行動する契機となる場の提供」ができるよう、対象者のための環境づくりや実行委員会企画が行えるようにする必要がある。				
今年度の重点	対象者の責任や自覚を促す機会の提供ができるよう、また、『市民』としての自覚をもって考え行動する契機となる場の提供ができるように、厳粛な式典が行えるような環境整備を行ったり、実行委員会企画の考案、実施ができたりするように実行委員会と共に計画・準備を進める。また、実行委員の確保に向けて、関係各所に協力を依頼するなど、様々な方法での広報等を継続して行う。				

◆ 地域社会での健全な子どもの育成とその推進のための指導者育成の充実

事業名	子ども会リーダー・育成者研修事業	担当課	地域子育て支援課	予算額 (千円)	1,377
事業の概要	S41年度から、「子どもたちが自分たちの手で創る子ども会活動」の実現のため、子どものリーダーの育成、育成者・指導者の研修等を行っている。球技指導者には、安全面・健康面を重視した研修に取り組むなど、ニーズに合った研修を実施するようにしている。				継続
現状と課題	子ども会活動の根幹となる「人との関わり、ふれあい」が、コロナ禍において難しい状況が続いていた。昨年度、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、子ども会活動が従来の形に戻りつつある。リーダー養成では、ジュニアリーダーたちの活動場面が増えてきたが、ジュニアリーダーになろうとする子どもたちの数が減少しており、今後の人材確保が喫緊の課題である。				
今年度の重点	今後とも刻々と変わる状況に対応できるよう、教育に関わる情報収集を続け、今必要とされる研修をタイムリーに実施する。また、ジュニアリーダー育成については、社会性や人権尊重の精神の育成に加え、自分の思いや考えを伝えることのできる表現力がより身に付くように意識的に取り組む。				

事業名	放課後子ども教室推進事業	担当課	地域子育て支援課	予算額 (千円)	10,600
事業の概要	心豊かな子どもたちの育成を目指し、各小学校区で組織する実行委員会により、平日の放課後や学校休業日に、地域の方々の参画を得て、学校施設等を活用し児童生徒が安全・安心に過ごし学べる居場所を設け、体験活動や交流活動、学習支援活動の場を提供する。				継続
現状と課題	R5年度は17小学校区で実施。継続して教室を開設するためには後継者の育成が不可欠であるが、指導者やボランティアの高齢化が進み、人材確保が難しくなってきている。				
今年度の重点	地域の多様な方の参画による、地域の中での多様な体験活動、交流活動、学習支援活動を通して、教育大綱で示される5つの力(活用力、表現力、向上心、社会性、人権尊重の精神)を育み、次世代を担う人材育成につなげる。				

事業名	わくわく子どもまつり	担当課	地域子育て支援課	予算額 (千円)	300
事業の概要	子どもたちへの豊かな体験活動の提供と、子育て情報の発信、子育て支援団体同士のネットワークの構築を目的にH16年から市民協働により開催し、多くの子育て家族が参加している。子育て支援団体が、日頃の活動の発表や、遊び・体験活動の提供を行っており、子育て支援団体や行政などで構成される実行委員会にて事業を実施することで、子育て支援にかかわる多様な団体のネットワークの形成につながっている。				継続
現状と課題	コロナ禍でR2年度から3年連続で中止していたが、開催形式や体験活動の内容、参加団体数等を検討し、R5年度の事業では、会場内の各ブースの間隔を広くして開催した。課題は、開催間隔が空いたことや各ブースの間隔を広くしたことによる参加団体の減少、来場者数の減少、協賛金等の収入の減少である。				
今年度の重点	アフターコロナにおける開催形式の確立、連続開催による協賛者への訴求効果の向上を図る。				
他局・他課との連携	保健福祉局保健管理課・高齢者福祉課、保健所健康づくり課、環境局環境事業課、教育委員会事務局生涯学習課公民館振興室(実行委員会やブースへの参加)				

◆ 生涯学習環境の充実・整備

事業名	公民館建設・整備事業	担当課	生涯学習課	予算額 (千円)	912,815
事業の概要	老朽化し、耐震基準を満たしていない公民館については、公共施設等マネジメントの基本方針や地域の状況等を踏まえ、建て替えを行う。岡山中央中学校区の公民館については、岡山中央中学校区公民館建(仮称)設事業(R4年度から別記シート)に記載。 岡山市公共施設等総合管理計画個別施設計画に基づき、公民館施設の長寿命化を図る。具体的には、予防保全の考え方に基づき、計画的に建物改修工事や設備更新を行うとともに、バリアフリー化を行っていく。				継続
現状と課題	R3年度の上道公民館建設の完了により、耐震化ができていない公民館は岡山中央中学校区の旭公民館のみとなっている。旭公民館の建て替えについては、R3・4年度に設計を完了、R5年度からは建設予定地の既存施設の解体を行っており、R6年度からは新築工事に着手する予定。工事にあたり引き続き、学校等との調整を進めていく必要がある。 建物や設備の老朽化が進むことにより、雨漏り等が発生したり、空調が故障するなど、公民館運営に支障をきたすことから、早急な改修等の対応が求められている。また、誰もが利用しやすい施設のバリアフリー化や指定避難所としての設備の機能強化も求められている。				
今年度の重点	岡山中央中学校区の公民館について、R3・4年度に行った設計、R5年度から行っている建設予定地の既存施設の解体工事に続き、R6年度からは新築工事を学校等との調整を進めながら行う。 老朽化が進んでいる施設の外壁や屋根・屋上等の改修や空調設備等の更新を行う。また、バリアフリー化を進めるためトイレの洋式化を行う。				
他局・他課との連携	都市整備局(改修内容検討、設計協議、工事施工等)				

事業名	郷土資料のデジタルアーカイブ公開と保存・活用	担当課	中央図書館	予算額 (千円)	8,684
事業の概要	岡山市立図書館が所蔵する貴重な郷土資料(古文書、絵図等)のウェブ上でのアーカイブ公開を目指して資料のデジタル化をこれまで行ってきた。 デジタル化した資料を教育や地域活性化等のために、活用を推進し、岡山の歴史・文化の発信にも寄与するため、デジタルアーカイブを構築・公開する。 また、引き続き郷土資料の状態把握と内容理解に努め、優先順位をつけて適切な保存対策(資料の修復、保存箱の改善、脱酸性化処理、デジタル撮影等)を講じる。				拡充
現状と課題	一部の郷土資料(古文書、歴史的公文書、古地図、古写真等)は、戦中戦後の時期の劣悪な紙を使用した資料を中心に劣化が進んできている。保存状況の改善を進め、デジタル技術を利用して保存と利用拡大の両立を図ることが必要になっている。				
今年度の重点	幅広い活用に向け、コンテンツを精査し、調べ方ガイドも作成する等してR6年度中にデジタルアーカイブを構築・公開し、公開記念講座を開催する。 また、これまで取り組んできた保存対策(資料の修復、保存箱の改善、脱酸性化処理、デジタル撮影等)も引き続き進める。				
他局・他課との連携	学校指導課(デジタルアーカイブの学校での活用に関する相談等)				

事業名	夜間教室運営事業	担当課	生涯学習課	予算額 (千円)	2,550
事業の概要	不登校など様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した人などを対象に、学び直しの場として夜間教室を開設し、義務教育課程の内容について学習支援を行う。				継続
現状と課題	市内2カ所で月2回の夜間教室を開室している。一人一人の実態に応じた学習支援を行っている中で、「自分が学びたいこと、学びたかったことが学習できる場」として来室者からの満足度はとても高い。 今後も引き続き、学び直しを求める人や、希望があっても情報が十分届いていない人に対して、夜間教室受講に係る継続的な広報を行い、一人でも多くの参加が得られるよう働きかけを行うことが課題である。				
今年度の重点	夜間教室の運営により、様々な事情で十分な教育を受けることのできなかった人々に学び直しの場と機会を提供する。また、引き続き、夜間中学に関するニーズの把握に努める。				
他局・他課との連携	就学課と受講者に対する公立夜間中学への入学意向アンケートの結果を共有する。				

事業名	夜間中学設立事業	担当課	就学課	予算額 (千円)	66,500
事業の概要	実質的に十分な義務教育を受けられなかった方に対する学ぶ機会の確保を目的に、R7年4月に岡山後楽館中学校に夜間学級を開設するための準備等を行う。				拡充
現状と課題	R5年3月に策定した「夜間中学設置基本方針」に基づき、R5年度からは、教育課程等の運営上の様々な課題について検討を行っている。 今後、連携中枢都市圏を含む広域的な受入に伴う課題の整理や県との連携について整理していく必要がある。また、シンポジウムの開催や授業体験会の実施を通して夜間中学の認知度の向上に努めているが、入学を希望する方へ情報が届くよう、引き続き周知・啓発及びニーズ把握に努めていく必要がある。				
今年度の重点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 入学希望者の把握等を行うため、引き続き授業体験会を開催 ○ R7年度入学希望者向けの入学説明会及び生徒募集を実施 ○ リーフレットなどを作成し啓発活動を実施 ○ 既に夜間中学を開設している自治体への調査、視察を実施 ○ 岡山後楽館中学校・高等学校内の施設等の整備及び備品等の調達 				
他局・他課との連携	市民協働局、保健福祉局、岡山っ子育て局等の関係課と協議・連携して検討を進める。				

事業名	岡山中央中学校区公民館(仮称)建設事業	担当課	生涯学習課	予算額 (千円)	630,215
事業の概要	老朽化し、耐震基準を満たしていない岡山中央中学校区の旭公民館について、移転・建て替えを行うもの。移転先は岡山中央中学校の敷地内とし、中学校の武道場との合築による新たな施設の建設を予定している。学校敷地内に公民館を整備することにより、学校教育と社会教育との連携も一層進めようとするもの。				継続
現状と課題	旭公民館の建て替えに向けた地元協議が整ったため、R3年度に基本設計に着手した。事業を進めるにあたっては、岡山中央中学校との協議の他、地域住民を対象とした説明会・ワークショップ、学校の保護者説明会、旭公民館運営協議会への説明等を行い、事業への理解を求めるとともに、設計に中学校、地域住民、公民館利用者の意見を反映すべく調整を行い、R4年度に詳細設計を完了した。公民館は避難場所にもなるため、自立電源確保のための新たな取組として、蓄電池の設置などを設計に盛り込んだ。引き続き事業を円滑に推進するために、地元、学校などとの協議、連携を継続する必要がある。				
今年度の重点	既設武道場、プールの解体工事及び新築工事を行うにあたり、学校等との協議・調整を行い、円滑な事業進捗に努めるとともに、新施設において学校と公民館が協働して未来を担う子どもを持続的に育ていくことができるよう、学校との協議を引き続き行う。				

■ 施策6-3 家庭、学校園、地域社会の協働体制の確立

施策の方向性

- 家庭、学校園、地域社会が協働して、未来を担う子どもを持続的に育てていくことができるよう、学校運営協議会の役割の理解促進と協議会の活性化に努めます。

◆ 地域協働学校及び地域学校協働活動の活性化

事業名	地域協働学校の活性化と学校評価の充実	担当課	学校指導課	予算額 (千円)	9,171
事業の概要	中学校区等の各学校園に「学校運営協議会」を設置し、保護者や地域住民が学校園運営に参画できるようにする。 認定こども園に「学校評議員」を設置し、保護者や地域住民がこども園の運営に関して意見を述べるようにする。 中学校区等で「連絡会」を開催し、学校運営協議会における協議内容や取組等の情報共有や意見交換を行うことで、中学校区等での子どもの育成に係る連携強化を図る。				継続
現状と課題	R5年7月には、「地域と学校の協働フォーラム」を開催し、約260名の学校園の先生方や地域の方が参加した。フォーラムでは、学校運営協議会や地域学校協働本部等それぞれの機能や枠組について再確認を行った。また、CSマイスターから学校運営協議会の充実と地域学校協働活動との一体的な推進について御講話いただき、好事例を広めた。R2年には、38中学校区すべての学校園に地域協働学校を設置しているが、学校運営協議会が形骸化しているという課題がある。今後、研修会の内容を工夫し、具体的な協議例を挙げたり、運営方法の工夫について提案したりすることで、学校運営協議会を充実させ、地域協働学校の活性化と学校評価の充実につなげる必要がある。				
今年度の重点	協議内容が、教育大綱が示す5つの力(活用力・表現力・向上心・社会性・人権尊重の精神)のうち、どの力の育成をねらうのか明確にして協議を行うことで、学校運営協議会委員への教育大綱の周知と協議の活性化を図る。				
他局・他課との連携	岡山っ子育成局と連携し、幼稚園等に「学校運営協議会」の意義や機能について周知を図っている。				

事業名	地域と学校協働活動推進事業	担当課	生涯学習課	予算額 (千円)	6,215
事業の概要	幅広い地域住民の参画により、地域と学校が連携・協働しながら、地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を推進する。				継続
現状と課題	地域と学校の連携・協働が進み、学校園を核として地域住民と子どもが関わりあうことで、子どもを共に育てる地域づくりである。学校園の活性化が図られるとともに、学校園の負担軽減にもつながっている。 しかし、地域学校協働活動の充実には、地域と学校園の架け橋となる地域学校協働活動推進員の配置が不可欠である。今後、引き続き、地域協働学校との連携や事業内容・成果のPR、研修会の開催などにより、地域学校協働活動推進員の配置及び育成を図る必要がある。				
今年度の重点	学校園・家庭・地域が協働して、未来を担う子どもを育てていくことができるよう、地域と学校園に啓発を行い、地域学校協働活動推進員を中心とした地域学校協働本部の設置推進を図る。これにより、地域学校協働活動を活性化し、子どもが地域の様々な人と交流しながら協働して活動することで、社会性等を伸ばしていく機会を増やし、自立する子どもの育成を支援する。				

◆ 市民協働による人づくりを推進するための広報広聴活動の充実

事業名	広報広聴活動の充実	担当課	教育企画総務課	予算額 (千円)	4,717
事業の概要	○ 「教育に関する総合調査」によって、小・中・高等学校の児童生徒並びに認定こども園、幼稚園、小・中・高等学校の保護者と教職員からの意見を集約 ○ 教育広報紙「こらぼ」の発行、教育委員会LINEでの情報発信、広報動画「教育長がきょうもいく」の配信による教育委員会や学校等の取組の紹介				継続
現状と課題	「教育に関する総合調査」を今後、マークシート方式からデジタル方式へ移行していく上で、アンケートの回収率の維持が課題である。 教育広報紙を学校園を中心に広く配付しているが、読者の興味・関心を表す指標でもある読者アンケートの提出者数が多いとは言えず、より読者の興味・関心を引いてもらえるような内容・構成を考える必要がある。同時に広報紙のデジタル化へ向けて検討が必要。				
今年度の重点	教育広報紙「こらぼ」においては、R6年度は「やる気につながる好奇心の醸成」を中心に、紙面構成を行う。学校園での取組の様子や家庭教育のヒントになる事業、話題を取り上げていく予定である。そして、保育園・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校の保護者を中心とした市民にわかりやすく紹介し、教育への関心と市民協働の学校運営への参加意識を高めるとともに、家庭・地域社会の教育力の向上を目指す。				

(3) 事業目標一覧

※ 有用感や満足度等の割合については、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の回答を合わせた割合としています。
 ※ 「R6末目標値」には、事業の内容によって、数値ではなく進捗状況等の「状態」を記述したものが一部あります。

施策	事業	指標	R4末実績値	R5末実績値	R6末目標値	
施策1-1 一貫した学びの推進	学びづくり推進プロジェクト	「子どもが輝く学びづくりプロジェクト」3年次校への指導主事の指導・助言回数	4.7回	1校あたり平均4.7回	1校あたり平均5回以上	
	英語教育推進事業	CEFR A1レベル(英検3級)相当以上の英語力を有する生徒の割合	44.0%	53.1%	50%	
	教育課題別研究事業	教育課題別研究の成果物を利用した学校の割合	91.7%	89.8%	100%	
	特色ある学校教育推進事業	「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立した」と回答した学校の割合	小 97.7% 中 89.4%	小 94.2% 中 97.3%	小 100% 中 95%	
	就学前教育の充実	「幼児の学びを豊かにするために、意図的・計画的に研修の場や機会等の環境を整え、保育の改善を図っている」と答えた教員の割合(最上位)	81.6%	81.7%	82%	
	習熟度別サポート事業	習熟度別サポート事業によって、より個々の実態に応じた授業ができていていると感じている実施校の割合(教員評価)	91.0%	92.1%	95%	
	岡山っ子スタート・サポート事業	支援員の配置によって、円滑な義務教育のスタートや、つまずきの早期発見・早期解消に役立ったと感じる実施校の割合(教員評価)	97.1%	100%	100%	
施策1-2 豊かな学習資源の活用推進	図書資料等の活用推進	学校図書館運営計画(経営計画)の作成率	100%	100%	100%	
	ICTを基盤とした情報活用能力向上事業	授業でコンピュータなどのICTを毎日使用する子どもの割合	小 15.7% 中 6.8% (R3)	小 17.9% 中 6.6% (R4)	小 100% 中 100%	
	学校支援ボランティア事業	ボランティア登録者数 学生ボランティア活動回数(のべ)	6,986人 5,422回	6,923人 4,864回	7,500人 5,800回	
施策2-1 思いやりの心や規範意識、向上心の育成	心豊かな子どもの育成事業	「あの人の生き方に学ぶ講演会」で、「児童生徒の思いやりや規範意識、向上心等の育成につながった」と回答した実施校の割合	100%	100%	100%	
	オリエント美術館体験講座	小中学生の体験講座参加者数	1,155人	1,254人	1,350人	
	岡山市ジュニアオーケストラ運営事業	年2回の演奏会の観客動員数の合計	1,133人	1,618人	2,400人	
	犬島自然の家での体験活動による学びの拡充	体験的な活動(カヤック・クラフト体験)の利用者数	336人	280人	350人	
	めだかの学校での展示やWEBサイト等の充実	入館者数(「環境まつり」を除く)	4,800人	5,842人	6,000人	
	わくわく探険隊		「活動を通して仲間と協力することの大切さを学ぶことができた」と回答した参加者の割合	96.4%	98.0%	100%
			「自然体験活動を楽しむことができた」と回答した参加者の割合	100%	100%	100%
	子ども読書活動の推進		児童書の貸出冊数	119万冊	119万冊	122万冊
行事参加人数(のべ)			3,832人	5,992人	6,000人	
岡山キャリアスタートウィーク		協力事業所数	1,784事業所	2,087事業所	2,000事業所	

施策	事業	指標	R4末実績値	R5末実績値	R6末目標値	
施策2-2 岡山を愛する心と国際感覚の育成	文化財及び埋蔵文化財の発掘調査成果の活用	文化財の現地公開や文化財をテーマにした講座などへの参加人数	67,051人	93,131人	46,500人	
	史跡公有化の推進	公有化達成比率	63.0%	64.0%	69%	
	史跡保存整備事業	整備事業完成比率	82.0%	87.0%	90%	
	オリエント美術館特別展等の開催	小中学生の年間入場者数	4,223人	1,734人	2,000人	
	オリエント美術館学校連携推進事業	オリエント美術館を利用した学校数	—	—	60校	
	ESDに係る地域と連携した取組の推進	学校教育基本計画の中に、ESDの推進を位置付けている学校の割合		100%	100%	100%
		自分たちの住んでいる地域に興味や関心がある子どもの割合		58.4%	58.9%	60%
ALTを活用した多文化理解の促進	「外国の人に話しかけられたら、進んでそれに答える」と答えた子どもの割合		—	小 59.2% 中 56.2%	小 64.1% 中 61.8%	
施策3-1 体力づくりの充実と安全教育の推進	運動習慣定着化事業	1週間の総運動時間が60分未満の子どもの割合(中2男子・女子)	中2 男子 8.5% 女子 20.5%	中2 男子 14.4% 女子 30.5%	中2 男子 7.3% 女子 19.8%	
		体育の自主学習を含め、運動習慣定着化に向けた取組を実施している学校の割合	100%	97.6%	100%	
	学校保健事業	薬物乱用防止教室の実施率	66.9%	70.6%	100%	
	実践的安全教育総合支援事業	アドバイザー派遣対象校の満足度	100%	100%	100%	
	子どもの命を守る取組の推進	応急手当普及員が在籍する学校の割合	100%	100%	100%	
防災キャンプ推進事業	防災キャンプ推進事業の参加者数(児童生徒)	377人	707人	800人		
施策3-2 食育の推進	学校給食における食育の推進	「食に関する指導が学校全体で計画的に実施できた」と回答した学校の割合	92.7%	95.9%	100%	
	客観的な数値を活用した食育事業	「実態把握(データ)や身体測定値等の客観的な数値をもとに、食に関する指導を行った」と回答した学校の割合	83.7%	93.5%	100%	
施策4-1 一人一人を大切に 集団づくりの推進	生徒指導関係事業	「質問紙調査の活用が集団づくりに有効であった」と回答した学校の割合	97.6%	99.2%	100%	
	スクールカウンセラー配置事業	スクールカウンセラーの相談件数	11,441件	11,266件	13,000件	
	不登校児童生徒支援員配置事業	不登校児童生徒支援員配置に関するアンケートにおける「非常に効果があった」と回答した割合	小 90.2% 中 86.8%	小 95.7% 中 89.5%	小 95% 中 90%	
		1年間で、10日以上欠席したことがある子どもの割合	7.6%	16.0%	6.0%以下	
	教育支援アドバイザー配置事業	配置校において、「自校の教育課題の解決に向けて、連携・協力して組織的に取り組んでいる」と回答した教職員の割合	78.9%	78.9%	90%	
	いじめ専門相談員派遣事業	学校等への派遣回数(のべ)	40回	26回	80回	
	問題行動等対策事業	定例会の開催回数	3回	3回	3回	
施策4-2 一人一人の課題に応じた きめ細かな支援	就学援助事業	全児童生徒に対する就学援助認定状況	14.6%	14.4%	—	
	共に生きる子どもを育てる 障害児支援事業	「学校に行くのが楽しい」と答えた特別支援学級に在籍する子どもの割合	小 75.4% 中 70.1%	小 75.8% 中 65.4%	小 85% 中 85%	
		「自分には良いところがある」と答えた特別支援学級に在籍する子どもの割合	小 80.2% 中 73.0%	小 82.2% 中 73.9%	小 85% 中 85%	
日本語教育推進事業	日本語指導を受けたことにより、日常生活に必要な日本語が身に付いた子どもの割合	100%	100%	100%		

施策	事業	指標	R4末実績値	R5末実績値	R6末目標値	
施策5-1 教職員の資 質・能力の 向上と支援 体制の充実	魅力ある教員の確保事業	岡山市公立学校教員採用候補者選考試験出願者数	662人	706人	800人	
	学校園における人権教育の充実	教職員の姿勢について、人権教育推進状況報告書(岡山市)での肯定的回答の割合	100%	100%	100%	
		人権教育推進報告書(岡山市)において、「人権課題を取り上げた授業等を行った」と回答した学校の割合	100%	100%	100%	
	教職員研修事業	「研修のねらい達成のために、研修がとても役立った」と回答した受講者の割合	79.2%	69.2%	85%	
	OJT若手教員育成支援プロジェクト	支援終了後に行うアンケートによって、支援が「大変効果的だった」と回答した教員の割合	85.7%	92.4%	95%	
	教職員の力量を高める教育研究事業	研究成果物を利用した学校の割合	86.2%	89.1%	90%	
	ICT活用指導力向上事業	子どものICT活用を指導することができる教員の割合	69.8% (R3)	72.9% (R4)	100%	
		授業においてICTを活用して指導することができる教員の割合	65.3% (R3)	69.0% (R4)	100%	
	学校問題解決サポート事業	本事業が解決困難な課題の解決に役立っていると感じる学校の割合(相談を受理した学校に対して)	87.1%	91.2%	100%	
	学校業務アシスト事業	「子どもと向き合う時間の確保につながった」と回答した教員の割合	94.2%	94.6%	100%	
部活動指導員配置事業	顧問の負担軽減率	75.9%	79.0%	100%		
デジタル採点システムの導入	「子どもと向き合う時間の確保につながった」と回答した教員の割合	—	94.6%	100%		
新教育研究研修センター(仮称)整備事業	整備完成までの総事業費に対する完了した費用(除:備品)の割合		0.9%	3.5%		
施策5-2 安全・安心で快適な教育環境の整備	学校図書館の充実	図書標準を達成している学校の割合(緑ヶ丘中を除く)	100%	98.4%	100%	
	ICT環境整備事業	大型提示装置の更新	小学校高学年普通教室(特支除く) 中学校一部の特別教室		小学校低・中 学年普通教室 (特支除く) 中学校一部の 特別教室	小学校 普通教室 (特支)
		保護者連絡ツールの登録者数の割合			85.0%	90%
	学校施設長寿命化改修事業	令和7年度までの事業1期6年間で達成する目標100%とした各年度の割合	50.8%	68.5%	77.6%	
	義務教育学校施設整備事業	全ての施設が完成するまでの工事費総額に対する完了部分工事費額の割合	94.7%	98.2%	100.0%	
	学校空調設備整備事業	全ての市立学校の教室等(管理諸室を含まない)の総数に対する空調設備整備済の教室等の割合	60.2%	60.6%	60.6%	
学校給食施設再整備事業	新岡山学校給食センター(仮称)整備		—	土地造成 PFI事業 公告	下水道整備 PFI事業 契約	
	建部学校給食センター安全対策		—	—	配膳室等 設計	
	学校給食施設再整備計画策定		—	—	計画策定 着手	
施策6-1 家庭の教育 力向上への 支援	PTAにおける人権教育の充実	人権教育室主催研修受講者アンケートでの肯定的回答の割合	95.2%	94.7%	100%	
	家庭教育支援事業	家庭教育支援アドバイザー派遣回数	9回	11回	20回	
	スクールランチセミナーの充実	「セミナーで学んだことを自らの食生活に生かしたい」と回答した参加者の割合	91.4%	93.2%	95%	
	絵本の読み聞かせ事業	行事の参加人数	388人	546人	560人	
	子育て支援「のびのび親子広場」事業	「地域における子育て家庭に対する支援を工夫しながら、子育てを支援していく役割を果たしている」と答えた園の割合	53.4%	61.0%	62%	

施策	事業	指標	R4末実績値	R5末実績値	R6末目標値
施策6-2 地域社会の 教育環境の 充実	インターネット予約 図書事業	インターネット予約図書事業公民館の貸出冊数	200,871冊	204,434冊	218,500冊
	図書館業務システ ム更新による市民 サービスの向上	個人登録者数	60,767人	49,235人	65,000人
	連携中枢都市圏 図書館相互利用	住民一人当たりの貸出冊数	5.6冊	5.6冊	6.1冊
	公民館ESD・SDGs 活動推進事業	SDGs・ESD関連講座の受講者数	—	1,936人	2,000人
	公民館運営事業 (公民館基本方針 の推進)	公民館主催講座・クラブ講座における利用者数(のべ)	569,635人	599,681人	664,000人
		公民館基本方針重点分野の事業への参加者数	41,663人	52,452人	53,000人
		主催事業でオンライン会議システムを活用した回数	103回	53回	105回
	二十歳の集い事 業	二十歳の集い参加率	70.5%	74.8%	75%
		実行委員会構成員数	20人	11人	15人
	子ども会リーダー・ 育成者研修事業	「育成役員研修会に参加して有意義であった」と回答した参加者の割合	中止※	98.0%	100%
		「インリーダー研修会に参加して有意義であった」と回答した参加者の割合	100%	100%	100%
		「ジュニアリーダー研修会に参加して有意義であった」と回答した参加者の割合	94.4%	100%	100%
	放課後子ども教室 推進事業	実施小学校区数	17小学校区	17小学校区	24小学校区
	わくわく子どもまつ り	わくわく子どもまつり参加団体数	中止※	36団体	45団体
	公民館建設・整備 事業	岡山中央中学校区公民館(仮称)建設の進捗状況	詳細設計 完了	既存施設解 体工事着手	新築工事 着手
		トイレ洋式化率	68.1%	69.8%	72.3%
	郷土資料のデジタ ルアーカイブ公開 と保存・活用	資料のウェブ公開点数	—	—	1,685点
	夜間教室運営事 業	充実した学びの場となっていると感じる生徒の割合	100%	100%	100%
		参加者数	15人	14人	30人
	夜間中学設立事 業	準備検討の進捗状況	33.3%	66.6%	100%
岡山中央中学校 区公民館(仮称) 建設事業	岡山中央中学校区公民館(仮称)建設の進捗状況	詳細設計 完了	既存施設解 体工事着手	既存施設解 体工事完了・ 新築工事着手	
施策6-3 家庭、学校 園、地域社 会の協働体 制の確立	地域協働学校の 活性化と学校評 価の充実	学校運営協議会の実施回数(小中学校123校×3回)	325回	336回	369回
	地域と学校協働 活動推進事業	実施学校園の割合	30.4%	35.4%	40%
		本事業によって地域学校協働活動が充実したと感じている学校園の割合	85.4%	87.5%	100%
	広報広聴活動の 充実	教育に関する総合調査のアンケート回収率	93.9%	93.7%	94.2%
「学校は、教育活動の様子や情報をよく分かるように伝えている。」と回答した保護者の割合		84.2%	84.9%	90%	

(参考)

★第3期岡山市教育振興基本計画における政策の評価指標一覧

※ 有用感や満足度等の割合については、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の回答を合わせた割合としています。

政策	指標	基準値(R3)	岡山市教育振興基本計画 R7最終目標値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値
1 主体的な 学びの推進に よる確かな学 力の育成	校長による週2回以上の授業参観の徹底	小 97.8% 中 94.7%	小 100% 中 100%	小 100% 中 100%	小 100% 中 100%		
	「学校内外の人材の活用により子どもの総合的な学力が伸びてきている」と答えた保護者の割合	78.3%	80.3%	71.2%	71.9%		
	授業でコンピュータなどのICTを毎日使用する子どもの割合	小 4.4% 中 4.7% (R2)	小 100% 中 100%	小 15.7% 中 6.8% (R3)	小 17.9% 中 6.6% (R4)		
	CEFR A1レベル(英検3級等)相当以上の英語力を有する生徒の割合	43.3% (R2)	50%	44.0%	53.1%		
2 人や自然、文化との 関わりを通した 豊かな心の 育成	「今住んでいる地域や岡山市の歴史や自然に関心がある」と答えた子どもの割合	小 62.4% 中 50.0%	小 69.5% 中 57.9%	小 67.1% 中 49.6%	小 68.0% 中 49.8%		
	「外国の人に話しかけられたら、進んでそれに答える」と答えた子どもの割合	小 60.1% 中 57.8%	小 64.1% 中 61.8%	小 56.9% 中 54.2%	小 59.2% 中 56.2%		
	文化財施設・講演会等への来訪者数	26,615人 (R2)	47,300人	67,051人	93,131人		
3 健康教育の 充実による 健やかな体の 育成	1週間の総運動時間が60分未満の子どもの割合	中2男子 8.5% 中2女子 19.7%	中2男子 7.0% 中2女子 19.0%	中2男子 8.5% 中2女子 20.5%	中2男子 14.4% 中2女子 30.5%		
	「朝食を毎日食べると」答えた子どもの割合	83.2%	100%	81.9%	80.7%		
4 一人一人の 育ちを支える 指導・支援の 充実	「学校に行くのが楽しい」と答えた子どもの割合	小 84.2% 中 82.7%	小 90% 中 88%	小 81.8% 中 79.9%	小 82.0% 中 79.6%		
	「自分には良いところがある」と答えた子どもの割合	小 79.8% 中 79.3%	小 85% 中 80%	小 81.4% 中 81.8%	小 87.3% 中 83.4%		
	児童生徒1,000人当たりの暴力行為の発生件数	小 8.3件 中 12.7件 (R2)	小 6.5件 中 7.7件 (R6)	小 8.1件 中 11.3件 (R3)	小 7.8件 中 9.4件 (R4)		
	いじめの解消率(いじめの認知件数に対する解消率)	66.7% (R2)	77.4% (R6)	71.2% (R3)	51.2% (R4)		
	不登校の出現率	小 1.14% 中 3.40% (R2)	小 0.82% 中 2.80% (R6)	小 1.46% 中 4.25% (R3)	小 1.79% 中 4.80% (R4)		
5 学校園の 教育環境の 充実	「学校の授業は分かりやすく楽しい」と答えた子どもの割合	小 83.3% 中 75.5%	小 87% 中 82%	小 81.5% 中 71.9%	小 81.7% 中 71.3%		
	「子どもと向き合う時間が充足している」と答えた教職員の割合	56.5%	61%	56.9%	58.0%		
	「学校園は、学びやすい環境づくりや安全などに配慮して施設・設備を整えている」と答えた保護者の割合	92.7%	95.9%	89.6%	89.9%		

政策	指標	基準値(R3)	岡山市教育振興基本計画 R7最終目標値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値
6 家庭、地域社会の教育環境の充実	「年齢に応じた役割を子どもに与えている」と答えた保護者の割合	78.9%	81.7%	78.9%	79.6%		
	市立図書館の市民1人当たりの年間貸出冊数	5.4冊 (R2)	6.4冊	5.5冊	5.5冊		
	公民館主催講座・クラブ講座における利用延べ人数	384,961人 (R2)	738,000人	569,635人	599,681人		
	地域協働学校の学校運営協議会の開催回数	平均 2.46回 (R2)	平均3回以上	平均 2.64回	平均 2.73回		
	公民館基本方針重点分野の事業への参加者数	22,000人 (R2)	62,000人	41,663人	52,452人		

★第2期岡山市教育大綱における評価指標及び目標

育む5つの力を測る評価指標

指標	基準値(R1)	目標値(R7)	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値
自分の考えを整理して伝えることができる児童生徒の増加【全国学力・学習状況調査の記述式問題の正答率の対全国比を1以上ににする。】	小6 1.00 中3 0.96	対全国比を1以上に	小6 1.03 中3 0.99	小6 1.01 中3 1.00		
情報を収集し、考えをまとめて発表している児童生徒の増加【探究的な学習をしていると感じる児童生徒の割合を全国平均レベル以上ににする。】	小6 67.5% 中3 59.9%	全国平均レベル以上に	小6 71.5% 中3 71.9%	小6 72.2% 中3 71.6%		
協力しようとする児童生徒の増加【協力して取り組んだことがうれしいと感じる児童生徒の割合を基準値(R1)から5ポイント以上上昇させる。】	小6 89.5% 中3 83.9%	小6 94.5% 中3 88.9%	小6 93.3% 中3 94.2%	小6 87.6% 中3 87.6%		
人を大切にできる児童生徒の増加【人が困っているときに進んで助けると考える児童生徒の割合を基準値(R1)から5ポイント以上上昇させる。】	小 86.6% 中 84.6%	小 91.6% 中 89.6%	小 84.6% 中 81.7%	小 85.1% 中 80.9%		

基礎としての2つの目標

指標	基準値	目標値(R7)	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値
全国平均レベル以上の学力【全国学力・学習状況調査の偏差値50以上(英語を含む)】	小6 国51 算50 中3 国50 数50 (R1)	50 以上	小6 国51 算50 中3 国50 数50	小6 国50 算50 中3 国50 数51 英50		
新規不登校児童生徒の減少【新規不登校児童生徒(小・中合計)の出現率0.47%以下】	0.74% (H30)	0.47% 以下	1.04% (R3)	1.18% (R4)		

5つの力の素となる「やる気につながる好奇心」の醸成に係る2つの目標

指標	目標値(R7)	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値
2つの視点を設けて振り返りを行っている学校の割合 ・「友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたか」 ・「学習した内容について、もっと知りたいと感じたか」	100%	85.5%	96.8%		
「学校の授業は分かりやすく楽しい」と回答した子どもの割合	小 87.0% 中 82.0%	小 81.5% 中 71.9%	小 81.7% 中 71.3%		